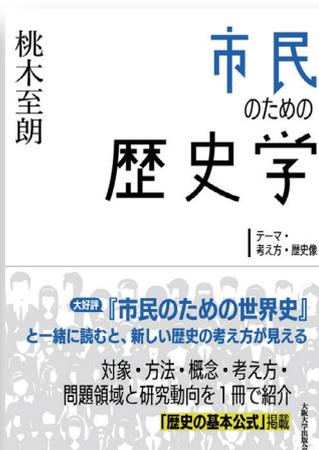
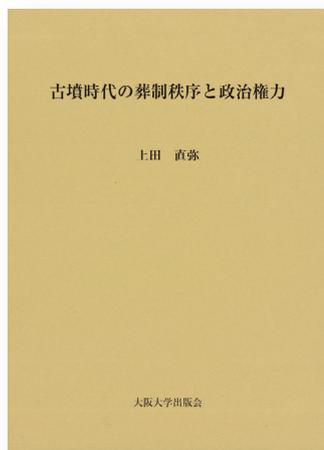


大阪大学出版会

2022年度日本史研究会大会 オンライン特別割引のご案内

全品 20%OFF

開催期間 2022/10/1 ~ 10/31



注文方法① 当会公式サイトから
<https://www.osaka-up.or.jp/>

ご希望の書籍を「ショッピングカート」に入れ、
購入画面へお進みください。
ご注文者情報の「備考欄」に、
「2022年度日本史研究会特別割引」
と記載の上、お申し込みください。

注文方法② Eメールから
eigyo@osaka-up.or.jp

件名を「**2022年度日本史研究会特別割引**」と
し、「お名前」「ご住所」「お電話番号」「ご注文
内容」をご記入の上、お申し込みください。

【特別割引】

上記の方法にて当会への直接ご注文の場合のみ、
特別価格「定価の2割引」を適用させていただきます。
当会刊行書籍全点（パンフレット未掲載書籍含む）
が対象となります。

【送料】

合計金額 5,000 円以上のご注文の場合は国内送料
無料にて承ります。

【お支払方法】

私費の場合はクレジットカード支払いとなります。
**（サイトからご注文の場合、割引適用の場合でも
仕様上画面では定価で表示されます。後ほど金額を
訂正し、連絡いたしますので、そのまま決済ください）**
公費の場合は請求書類のご指定もあわせてご連絡
ください。

大阪大学出版会 学会特別割引販売のご案内

※ 10 月末日までのご注文に限り特価（定価の 2 割引）で販売いたします

桃木至朗

市民 のための 歴史学

テーマ・
考え方・歴史像

市民のための歴史学

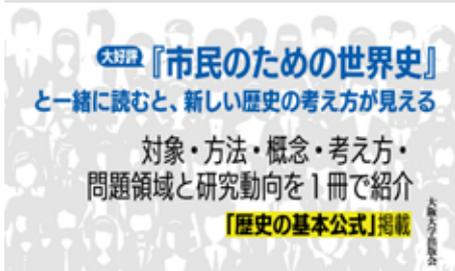
テーマ・考え方・歴史像

ISBN978-4-87259-756-1 C1020

奥付の初版発行年月：2022 年 03 月

桃木 至朗

A5 判 402 ページ 並製 本体価格 2500 円 + 税 10%



古い知識の問題点や新しい歴史学の面白さを取り上げた「課題」や「資料」から歴史学の意味を再考し、「歴史の公式」で歴史学の基本を押さえたうえで新しい世界史像を学び、汎用的な歴史的思考力を身に着ける。教科書の背景にある歴史学の考え方や動向を理解して、現代の諸課題に対して眼前の世界や常識に縛られずに考える批判的精神を身に着ける。大好評『市民のための世界史』に次ぐ、今を生きるための歴史学入門。

現代歴史学の最新動向を通覧できる史学概論の新・決定版！

…本書は歴史学の基本的な考え方と現代における動向を解説する入門書である。最初に、なぜ歴史理論や史学史の専門家ではない一介のベトナム史家、もしくはせいぜい「歴史教育改革とグローバルヒストリーにコミットした世界史教員」であったはずの著者が、大きな背伸びを要するそんな企てを必要と考えたか、著者の意図を説明しておきたい。それは第一に、紹介すべき現代歴史学の多面的かつ高度な発展、それがもつ面白さと社会的意義にある。意義が大きいが多様で高度なものをみんなが理解するには、解説が必要である。第二はそれと対照的に、専門外の社会では歴史と歴史学についての誤解・無理解が拡大していることである。しかも第一の方向にせよ第二の方向にせよ、歴史学の特性や現状について問われた際に、きちんと考えを整理して、相手や場に応じて説明や反論をする意志・能力を十分身につけた学生や若手教員が少ない。これが、著者が蛮勇を奮って本書を書こうと決心した理由である…（本書「序章」より）

序章 現代世界の中の歴史学 1

1. 現代世界の激動と歴史をめぐる戸惑い
2. 歴史学入門（史学概論）の内容と役割

第 1 章 歴史学はなにをどう問題にしてきたか、こなかったか

1. 歴史学の基本視角と対象
2. 日本の歴史学の位置と課題

第 2 章 史料（資料・史資料）とはなにか

1. 史料（資料・史資料）とその種類
2. 史料（資料・史資料）の探し方・使い方
3. 中華世界における外国情報とその記録

第 3 章 時間の認識と時代の区分

1. 時間と時代
2. 歴史観と時代区分
3. 新しい近代像とアジア・日本の位置

第 4 章 ローカルな歴史とグローバルな歴史

1. 一国史（国民国家の歴史）を越える／相対化する地域・空間設定
2. 日本史とアジア史・世界史をつなぐ

第 5 章 環境と人類、技術と科学の歴史

1. 歴史と環境
2. 技術・科学と環境・人類
3. 歴史人口学の世界

第 6 章 暮らしと経済の歴史

1. 暮らしと衣食住
2. 経済史の刷新
3. 貨幣の不思議

第 7 章 政治と外交、権力と反抗の歴史

1. 政治と権力の歴史
2. 国家・政体と外交

第 8 章 戦争・平和と軍事の歴史

1. 軍事・戦争の方法と意味
2. 軍事力の担い手と社会・国家体制
3. 反戦平和と学問

第 9 章 法と秩序・制度の歴史

1. 「法」の諸類型と系譜
2. 社会と「制度」「体制」「秩序」
3. 制度と人を結ぶ

第 10 章 社会と共同体・公共性の歴史

1. 社会とはなにか
2. 社会史という方法
3. 共同体と公共性
4. 中国「社会」とはどんなものだったか

第 11 章 ジェンダーの歴史、家族の歴史

1. ジェンダーという概念
2. 家族・親族と婚姻・ライフサイクル
3. 東アジア史のなかの日本型の家

第 12 章 文化・芸術・思想と情報・メディアの歴史

1. 文化史研究の現在
2. 言語論的転回以後の歴史研究
3. オリエンタリズム

第 13 章 歴史と記憶、歴史と現在

1. 「記憶」と「歴史」
 2. 歴史と現在
 3. 支配者（多数者）の歴史、勝者の歴史や国民の歴史でないものの模索
- ### 終章 歴史学の未来を考える
1. 歴史学とその「外部」
 2. 社会変動と制度改革のなかの歴史学と歴史教育
 3. 研究者のキャリアパスと大学・学界

付録

1. 歴史の公式
2. マルクス主義史学とはなにか？
3. 「言語論的転回」と「歴史＝物語り論」、そしてポストモダニズム
4. アジアの中の日本史

著者略歴は刊行当時のものです。

桃木 至朗（著）（モモキ シロウ）

1955 年生まれ。大阪大学大学院人文学研究科・招へい教授。

大阪大学出版会 学会特別割引販売のご案内

※ 10 月末日までのご注文に限り特価（定価の 2 割引）で販売いたします



[阪大リーブル 72]

グローバルヒストリーから考える新しい大学歴史教育 日本史と世界史のあいだで

ISBN978-4-87259-640-3 C1320

奥付の初版発行年月：2020 年 03 月

秋田茂，桃木至朗 編著

四六判 358 ページ 並製 定価 2300 円＋税 10%

世界史と日本史を統合した思考力重視の高校歴史系必修科目「歴史総合」の新設を受けて、大学でも教養課程レベルの歴史教育改革の必要性が高まっている。本書は大阪大学で試行されてきた授業をもとに、既成の区分を超えた新しい歴史学方法論を提示しグローバルヒストリーと大学歴史教育をつなぐ、新たな教科書である。

- (1) 広範な地域をカバーし、欧米中心史観を相対化できる
- (2) 古代から現代までを通時的にカバーし、前近代（古代から近世）を含む
- (3) 高校教員との緊密な協力により高大連携を意識した内容であることを強みとする。

『歴史学のフロンティア』『グローバルヒストリーと帝国』『グローバルヒストリーと戦争』に続く意欲作。

序 論 グローバルヒストリーから考える新しい大学歴史教育

—日本史と世界史のあいだで—

第 1 章 日本列島における漢字使用の始まりと東アジア

第 2 章 初期の対中国国際借款団と日本外交

—「国益」と資本の相互関係—

第 3 章 世紀転換期のインド系移民排斥と「インド太平洋世界」の形成

第 4 章 戦間期文化国際主義と「新渡戸宗の使徒」

第 5 章 日仏関係から見る世界史（1858 年— 1945 年）

—世界市場と国際的地位をめぐる—

第 6 章 泰緬鉄道建設をめぐる戦争記憶の比較史

—日本人将兵、イギリス人捕虜、ビルマ人労働者—

第 7 章 バウンドする伝播のネットワーク

—ウマ、火薬兵器、蒙古襲来—

第 8 章 琉球王国の形成と東アジア海域世界

第 9 章 東アジア「近世化」論と日本の「近世化」

第 10 章 生活水準の比較史—イギリスと日本—

第 11 章 肉桂と徳川期日本

—モノから見るグローバルヒストリー構築へ向けて—

第 12 章 現代東アジア諸国の少子化を歴史的に理解する

秋田茂（編著）（アキタシゲル）

1958 年生まれ。大阪大学大学院文学研究科・教授

主著に『イギリス帝国とアジア国際秩序』（名古屋大学出版会、2003 年）など。

桃木至朗（編著）（モモキシロウ）

1955 年生まれ。大阪大学大学院文学研究科・教授

主著に『中世大越国家の成立と変容』（大阪大学出版会、2011 年）など。

中村翼（著）（ナカムラツバサ）

京都教育大学教育学部・講師

高木純一（著）（タカギジュンイチ）

日本学術振興会特別研究員 SPD/ 奈良女子大学

山本千映（著）（ヤマモトチアキ）

大阪大学大学院経済学研究科・教授

岡田雅志（著）（オカダマサシ）

防衛大学校人文社会科学群・准教授

中嶋啓雄（著）（ナカジマヒロオ）

大阪大学大学院国際公共政策研究科・教授

岡田友和（著）（オカダトモカズ）

大阪大学大学院言語文化研究科・専任講師

池田一人（著）（イケダカズト）

大阪大学大学院言語文化研究科・准教授

向正樹（著）（ムカイマサキ）

同志社大学グローバル地域文化学部・准教授

市大樹（著）（イチヒロキ）

大阪大学大学院文学研究科・准教授

久保田裕次（著）（クボタクウジ）

国士館大学文学部・専任講師

著者略歴は刊行当時のものです。

大阪大学出版会 学会特別割引販売のご案内

※ 10 月末日までのご注文に限り特価（定価の 2 割引）で販売いたします

古墳時代の葬制秩序と政治権力

上田 直弥

大阪大学出版会

古墳時代の葬制秩序と政治権力

ISBN978-4-87259-765-3 C3021

奥付の初版発行年月：2022 年 09 月

上田直弥

B5 判 376 ページ 上製 本体価格 7,200 円 + 税 10%

全国にある古墳時代前半期の竪穴式石室や粘土槨などの埋葬施設に焦点を当て、その構造から共通性・地域性を抽出。当時の有力階層がどのような政治ネットワークを形成していたのかを復元する。また、古墳時代の開始期から横穴式石室の出現期までの変遷を考察することで、古墳の成立から盛行、消滅までの軌跡を浮き彫りにする。国内史のみならず世界史のなかで、古墳時代がもつ歴史的意義を考察するための重要な作業の成果。

本書は、およそ 3 世紀半ばから 7 世紀にかけて日本列島の広範囲に展開した古墳文化の意義を、特にその中心的構成要素である埋葬儀礼の分析から読み解こうと試みるものである。社会階層の分化が進行し、社会全体のエネルギーのうち大部分が社会上位層の、特にその葬送儀礼に際して消費されることが古墳時代の特徴である。古墳で執り行われる大々的な葬送儀礼は、地域を支配する首長の権勢を民衆に誇示したり、あるいは後継者である新たな首長の正統性を示すなどの政治的パフォーマンスにおいて格好の舞台であっただろう。むろん葬送儀礼を実行する以前に、特に寿陵として民衆を動員して古墳を築造すること自体も、社会を維持していく上で重要な役割を果たしていたと考えられるが、古墳というものがそれぞれ基本的にごく短期間の利用を原則としていることを勘案すれば、そのクライマックスである葬送儀礼においてどのような葬法が採用されているのか、如何なる葬具によって儀礼空間が構成されているのかなどの問題は、葬制の共有を媒体とした当時の政治状況を明らかにする上で最も重要な論点の一つである。

(本書 序章より)

序章 本書の目的と課題

- 第 1 節 国家形成期における葬制研究の意義
- 第 2 節 古墳時代葬送儀礼と埋葬施設構造
- 第 3 節 本書の構成と内容
- 第 4 節 用語と編年の問題

第 1 章 古墳時代竪穴系埋葬施設研究の現状

- 第 1 節 竪穴式石室の研究史
- 第 2 節 竪穴系埋葬施設研究の諸問題
- 第 3 節 「棺槨論争」の推移とその今日的意義
- 第 4 節 「槨」「室」名称問題が提起する課題

第 2 章 立面形態から見た畿内竪穴式石室の地域性

- 第 1 節 研究略史とその課題
- 第 2 節 横断面形態から見た竪穴式石室の地域性
- 第 3 節 石棺の成立と竪穴式石室
- 第 4 節 竪穴式石室の地域性とその意義

第 3 章 前期首長墓の系列展開と埋葬施設構造の変遷

- 第 1 節 研究史と分析視座
- 第 2 節 竪穴系埋葬施設基底部分類試案
- 第 3 節 畿内小地域ごとの石室基底部構造変遷
- 第 4 節 粘土槨の構造と竪穴式石室
- 第 5 節 竪穴系埋葬施設構造の地域性とその意義

第 4 章 摂津前期古墳の葺石と内部構造

- 第 1 節 古墳葺石の基礎的検討
- 第 2 節 摂津前期古墳における葺石
- 第 3 節 古墳の葺石と内部構造

第 5 章 竪穴式石室の広域普及と地域性

- 第 1 節 竪穴式石室構築規範の全国的傾向
- 第 2 節 山陰地域における竪穴式石室の構造
- 第 3 節 山陽地域における竪穴式石室の構造
- 第 4 節 竪穴式石室構築規範の多様性

第 6 章 畿内における粘土槨の展開過程とその画期

- 第 1 節 研究史とその課題

第 3 節 粘土槨の展開過程

第 4 節 粘土槨成立の歴史的意義

第 7 章 粘土槨の広域展開とその背景

- 第 1 節 関東における前期古墳研究
- 第 2 節 粘土槨の基礎的検討
- 第 3 節 関東地域における粘土槨の構造
- 第 4 節 埋葬施設と他要素の関係
- 第 5 節 粘土槨広域展開の歴史的意義

第 8 章 竪穴系埋葬施設から見たヤマト政権の対地域戦略

- 第 1 節 東海における前期古墳埋葬施設
- 第 2 節 東海—関東境界域における埋葬施設構造
- 第 3 節 竪穴式石室東限域における地域性
- 第 4 節 埋葬施設構造とヤマト政権の地域戦略

第 9 章 「棺制」の変遷と葬制の変革

- 第 1 節 猪名川流域における棺と外郭施設
- 第 2 節 近畿有力中期古墳における棺と外郭施設
- 第 3 節 初期群集墳における棺と外郭施設
- 第 4 節 「棺制」変遷の画期とその意義

第 10 章 古墳時代の葬制秩序と政治権力

- 第 1 節 埋葬儀礼の通時的変遷
- 第 2 節 埋葬儀礼の空間的展開
- 第 3 節 埋葬儀礼と葬制イデオロギー戦略の展開

終章 総括と展望

- 第 1 節 竪穴系埋葬施設の展開過程
- 第 2 節 古墳時代葬制研究の展望

著者略歴は刊行当時のものです。

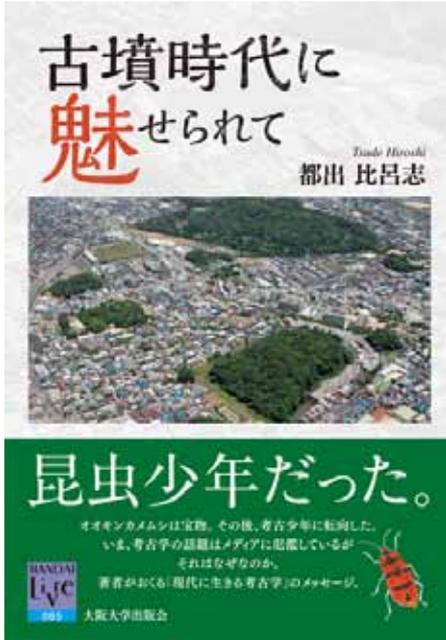
上田 直弥 (著) (ウエダ ナオヤ)

2018 年 大阪大学文学研究科博士後期課程修了 博士 (文学)。

現在 大阪大学埋蔵文化財調査室助教。

大阪大学出版会 学会特別割引販売のご案内

※ 10 月末日までのご注文に限り特価（定価の 2 割引）で販売いたします



[阪大リーブル 65] 古墳時代に魅せられて

ISBN978-4-87259-447-8 C1320

奥付の初版発行年月：2018 年 12 月

都出 比呂志 著

四六判 232 ページ 並製 定価 1700 円+税 10%

著者が考古学に興味を抱き、研究してきた跡をたどりながら、市民は何に関心を求めているのかを追求する。なぜ古いむかしを研究するのか。富を得てクニが誕生すると貧富の差が出来、支配・被支配の人間関係が生まれて戦争へと向かっていく。その歴史を遺物や遺跡を直接見ることによって、現代人は自分たちの問題が見えてくるのではないかと著者はいう。

…考古学は、近年ますます一般市民との結びつきを強めている。考古学に対する市民の関心は二つに大別できる。一つは、自分の祖先の過去や民族の起源に対する興味であり、もう一つは、人類社会の歴史一般に対する関心である。後者は、地球主義的な興味であり、現代の環境問題に典型的な人類の未来への不安感に根ざす場合もある。これら二つの関心は、同時に考古学者の研究動向とも関係する。個別文化の系統や歴史の探求を重視してきた従来の考古学は、前者の関心に応えてきた。プロセス考古学は、この種の研究を批判し、人類史の普遍法則を追求し、後者の好奇心に応えようとした。欧米では、プロセス考古学の功罪をめぐる論争が活発だが、この論争を止揚し、総合的視点の確立が重要である。人類の歴史的発展の研究も、個別の文化伝統の研究もともに重要である。これら二つの研究を車の両輪のように推進することにより、考古学は、現代社会に自らのメッセージを送り、一般市民の期待に応えることが可能になるだろう…（本書第三章「現代に生きる考古学」より）

はじめに 狩人バチから埴輪へ—昆虫少年が歩んだ道

第 1 部 考古学から現代を考える

第 1 章 「歴史は何の役に立つの？」

- 1、現代のうえに身をかかめてみるこなしには、過去を理解することはできない
- 2、実証科学の基礎を築く—小林行雄と日本考古学
- 3、考古学と文献史学の提携

【コラム】ショウガとミョウガ

第 2 章 日本考古学の国際化

- 1、海外の評価にも耳を傾けよう
- 2、日本考古学における、正と負の遺産
- 3、共通語をさぐる努力の必要性
- 4、独創性がほしい日本の考古学

【コラム】「ローストビーフ」クジラの刺身!? 冷凍後に変身

第 3 章 現代に生きる考古学

- 1、考古学への関心の多様性
- 2、お国自慢の考古学
- 3、地球主義の考古学
- 4、考古学が現代に送るメッセージ

【コラム】時差と国境

【対談】歴史の発掘—モノと文字の織りなす世界

第 4 章 アイルランドの水—ヨーロッパの畑作

第 II 部 クニのはじまり

第 5 章 日本文化起源論と歴史学

- 1、古代史とナショナリズム
- 2、日本文化起源論の現状
- 3、純潔日本文化論への疑問

【コラム】インディ・ジョーンズ

第 6 章 弥生人とノロシ

【コラム】定住と移動

第 7 章 古墳が作られた時代

- 1、人と人との交流
- 2、初期国家と古代国家
- 3、五世紀の難波と法円坂遺跡

【コラム】騎馬民族

【コラム】郷土の個性を探す

第 8 章 継体朝という時代—鉄をめぐる争い

おわりに 古墳時代と成熟した国家の違い

あとがき

著者略歴は刊行当時のものです。

都出 比呂志 (著) (ツデ ヒロシ)

1942 年大阪生まれ、68 年京都大学博士課程中退 京都大学助手 滋賀大学助教授をへて大阪大学教授 1989 年浜田青陵賞受賞、『王領の考古学』（岩波新書、2000 年）、『前方後円墳と社会』（塙書房、2005 年他多数

大阪大学出版会 学会特別割引販売のご案内

※ 10 月末日までのご注文に限り特価（定価の 2 割引）で販売いたします

日本古代国家の形成過程と対外交流

中久保 辰夫

大阪大学出版会

日本古代国家の形成過程と 対外交流

ISBN978-4-87259-578-9 C3021

奥付の初版発行年月：2017 年 03 月

中久保辰夫 著

B5 判 338 ページ 上製函入 定価 6400 円＋税 10%

年間 8000 件近い日本国内の発掘調査と、2000 年代以降急増した韓国内における発掘調査成果は、いま、従来の古代国家形成過程に更新を求めている。本書では、日本の国家形成期にあたる古墳時代を対象に、この時代の土器の特質、日韓交流の展開、韓半島から移住した渡来人の動向、そして古墳と集落にみる変化を基礎に、渡来文化の受容が果たした歴史的役割の解明を試みる。

…アジア・ユーラシア大陸の極東に位置する日本列島において、海域を通じた交通が政治、生活、文化、思想に大きな影響を与えてきたことは、よく知られている。「倭人」や「倭」などと呼ばれた集団、その社会が形成されていく過程のなかでも、時代に応じて東アジアの海域から押し寄せた交流の波が作用した。いまや「日本史」といった現代の国家を単位とする歴史叙述のあり方に見直しが行われるほど、海域アジアの世界は緊密に結びついていたことは、いまあらためて注目されている。しかしながら、文献史料や民俗資料にみる差異に加えて、考古資料を通じてみた場合においても、日本列島と韓半島、中国大陸のそれぞれに独自性をもつ文化や諸社会があることも事実であり、日本列島固有の社会や文化が生じた背景について考察することも、歴史や文化史に関する研究の大きな課題となる…（本書「序章」より）

序章 本書の目的と課題

- 1 本書の視座
- 2 本書における 4 つの論点

第 1 章 古墳時代土器にあらわれた時代の特徴

- 1 古墳時代土器の構成
- 2 外来の土器と在来の土器
—生産と消費にみる両者の差異
- 3 土器にみる文化の融合
—韓半島系土器の受容と生活文化の変容
- 4 小結—土器にあらわれた異文化融合

第 2 章 3～5 世紀における日韓交流の展開

- 1 問題の所在
- 2 4 世紀における日韓交渉論の進展
- 3 対外交流の変化と「空白」の 4 世紀
- 4 はそう（瓦へんに泉）の創出と 5 世紀の日韓交渉
- 5 小結—日韓交渉の展開とその背景

第 3 章 韓半島系渡来系集団と倭人社会

- 1 韓半島系渡来人の居住地
- 2 韓式系軟質土器の受容にみる集団関係
- 3 陶邑における韓式系軟質土器の変容過程
- 4 須恵器受容にみる渡来文化受容と在来社会
- 5 小結—渡来系集団の定着と在来集団—

第 4 章 古墳時代中央政権の質的变化と生産組織

- 1 手工業生産遺跡をめぐる近年の研究動向
- 2 5 世紀における手工業生産の展開
- 3 古市・百舌鳥古墳群の展開と初期群集墳
- 4 小結—河内政権の権力基盤

終章 日本古代国家形成論に関する理論的展望

- 1 東アジア情勢と倭人社会
- 2 日本古代国家の形成と対外戦略

中久保辰夫（著）（ナカクボ タツオ）

1983 年生まれ。大阪大学大学院文学研究科博士後期課程修了。2009 年度から 2010 年度まで日本学術振興会特別研究員（DC2）。2011 年より大阪大学埋蔵文化財調査室助教。現在に至る。博士（文学）：大阪大学。

主要業績

「古墳時代中期における韓式系軟質土器の受容過程」『考古学研究』第 56 巻第 2 号 考古学研究会、2009 年
「渡来人がもたらした新技術」『古墳時代の考古学』7 内外の交流と時代の潮流、同成社、2012 年
『野中古墳と「倭の五王」の時代』高橋照彦・中久保辰夫編、大阪大学出版会、2014 年
「古墳時代原初的官僚層形成に関するノート」『待兼山論叢』第 48 号、大阪大学大学院文学研究科、2014 年

大阪大学出版会 学会特別割引販売のご案内

※ 10 月末日までのご注文に限り特価（定価の 2 割引）で販売いたします



鎖国時代 海を渡った日本図

ISBN978-4-87259-686-1 C1025

奥付の初版発行年月：2019 年 07 月

小林 茂，永用 俊彦，鳴海 邦匡，白井 公宏，小野寺 淳，立石 尚之 編
A4 判 92 ページ 上製 定価 1900 円＋税 10%

鎖国状態にあった日本の姿をヨーロッパの人々はどのようにして知ったのか。長崎出島のオランダ商館、交易を求めるロシア船などを通して、ヨーロッパに多数の日本図が運ばれた様子と、日本図が受容され、活用されていく経緯を、ヨーロッパで刊行された日本図や海図、鷹見泉石関係資料に伝来する日本図から読み解く。長久保赤水「改正日本輿地路程全図」のヨーロッパにおける受容と変容も初紹介。

…江戸時代の日本では、行政や軍事のためたびたび地図が作られるようになり、その中には木版印刷により広く社会に普及するものもあらわれました。江戸や京都、大阪や長崎のような外来者の多い都市の地図のほか、日本全体を示す地図がおもに印刷され、販売されたのです。また手書きの図だけでなく、木版印刷の地図も多くが彩色され、その中には美しいものが少なくありません。

江戸時代は「鎖国時代」ともいわれ、日本人の海外渡航が禁止されるだけでなく、外国人の日本入国も厳しく制限されました。また外国人が国外に持ち出すものも制限されましたが、木版により印刷され、販売された地図については、規制はあまり厳しくなかったようで、その種の地図がヨーロッパに流出しました。大英図書館やフランス国立図書館のような大規模な図書館には、江戸時代に日本からきたと思われる地図がかなり残されていることは、それを示しています…（本書「はしがき」より）

鎖国時代 海をわたった日本図 図版

1. 江戸時代初期のヨーロッパで描かれた日本図
2. 日本で刊行された図のヨーロッパでの翻訳・複製（～ 1800 年）
3. 長久保赤水「改正日本輿地路程全図」の登場
4. ヨーロッパの探検船による日本列島の測量
5. ロシアでの「改正日本輿地路程全図」の翻訳・刊行
6. アロースミスの日本および千島列島図
7. オランダ商館長ティツィングの「改正日本輿地路程全図」にみえる地名の音訳
8. クラプロートの日本語表記研究とティツィング収集地名の改定
9. クラプロートの地名研究をとりいれたクルーゼンシュテルン「日本帝国図」の作製
10. クルーゼンシュテルンの「日本帝国図」を元にする図の普及
11. 日本で刊行された「改正日本輿地路程全図」の多様性
12. 欧米製の日本図における伊能図の採用

展示解説

1. 江戸時代初期のヨーロッパで描かれた日本図
2. 日本で刊行された図のヨーロッパでの翻訳・複製（～ 1800 年）
3. 長久保赤水「改正日本輿地路程全図」の登場
4. ヨーロッパの探検船による日本列島の測量
5. ロシアでの「改正日本輿地路程全図」の翻訳・刊行
6. アロースミスの日本および千島列島図
7. オランダ商館長ティツィングの「改正日本輿地路程全図」にみえる地名の音訳

8. クラプロートの日本語表記研究とティツィング収集地名の改定
 9. クラプロートの地名研究をとりいれたクルーゼンシュテルン「日本帝国図」の作製
 10. クルーゼンシュテルンの「日本帝国図」を元にする図の普及
 11. 日本で刊行された「改正日本輿地路程全図」の多様性
 12. 欧米製の日本図における伊能図の採用
 13. 鎖国時代、海を渡った日本図
- コラム「長久保赤水の日本図と伊能忠敬の日本図」

展示資料目録

あとがき

小林 茂（コバヤシ シゲル）
大阪大学名誉教授・大阪観光大学教授

永用 俊彦（ナガヨウ トシヒコ）
古河歴史博物館学芸員

鳴海 邦匡（ナルミ クニタダ）
甲南大学文学部教授

白井 公宏（ウスイ キミヒロ）
古河歴史博物館学芸員

小野寺 淳（オノデラ アツシ）
茨城大学教育学部教授

立石 尚之（タテシ ナオユキ）
古河歴史博物館学芸員

大阪大学出版会 学会特別割引販売のご案内

※ 10 月末日までのご注文に限り特価（定価の 2 割引）で販売いたします



大阪大学法史学研究叢書 3 近代日本の行政争訟制度

ISBN978-4-87259-752-3 C3032

奥付の初版発行年月：2022 年 03 月

小野 博司 著

A5 判 580 ページ 上製 定価 7800 円+税 10%

戦後否定された行政国家制の実像を再考する—

等閑視されてきた外地等の行政争訟制度を紹介するとともに、「行政裁判所は行政処分の正当性を事後的に弁明する機関に過ぎなかった」という“通説”を再検討し、行政争訟制度の歩みについて新たな理解を提示する。

本書は、明治国家期の行政争訟制度の理解を刷新することを目指す。第一に、「官庁の保護機関」と称されることもあった行政裁判所の実像に迫った。まず、明治 23 年の行政裁判法制定が、他の行政機関から相対的に独立した裁判機関を設置することにあつたことを明らかにした。そのうえで、明治 20 年代以降の制度改革の動きに注目し、行政裁判所が、行政裁判権の拡充強化を目指す改正案作りを主導していたことを示した。第二に、これまで知られてこなかった外地（台湾、朝鮮）及び傀儡国家（満州国）における行政争訟（制度）について論じ、台湾についてはその実態も示した。これにより、近代日本行政争訟制度の新たな「像」を提示した。

序章 本書の問題意識と課題設定

第一部 内地における行政争訟制度改革構想と行政裁判所

第一章 行政裁判所の設置

- 第一節 行政裁判法以前の行政争訟制度
- 第二節 新たな行政争訟制度の模索
- 第三節 行政裁判法の制定

第二章 行政裁判所の組織と権限

- 第一節 組織
- 第二節 権限
- 第三節 手続

第三章 法典調査会による行政争訟法改正作業

- 第一節 行政裁判法制定直後の行政裁判法改正論
- 第二節 明治三〇年代の行政裁判法改正作業
- 第三節 山脇派による改正案批判

第四章 山脇長官期の行政裁判法改正作業

- 第一節 日本弁護士協会による行政訴訟手続改善要求
- 第二節 明治四〇年代の行政裁判法改正作業
- 第三節 行政裁判所の刷新

第五章 行政裁判所による改革の試み

- 第一節 行政裁判所の改革構想
- 第二節 行政裁判法改正案の起草

補論 戦時期の行政裁判所

- 第一節 戦時期の行政裁判制度改革論
- 第二節 戦時期の行政裁判所

第二部 内地以外の地域における行政争訟制度

第六章 台湾への訴願制度の導入

- 第一節 日本弁護士協会台湾支部による行政争訟制導入要求
- 第二節 台湾総督府による台湾訴願令案の起草
- 第三節 訴願法の施行

第七章 朝鮮への行政争訟制度導入計画

- 第一節 朝鮮統治と行政争訟制度
- 第二節 朝鮮訴願令案の起草

第八章 満洲国訴願手続法の制定

- 第一節 訴願手続法の制定理由
- 第二節 訴願手続法の分析

終章 行政裁判所の廃止

- 第一節 行政裁判所廃止「決定」の過程
- 第二節 行政裁判所の廃止

附表

行政争訟関連法令・主要人名索引 / あとがき

小野 博司 (著) (オノ ヒロシ)

1979 年 神戸市に生まれる

現 在 神戸大学大学院法学研究科教授 博士 (法学) 大阪大学
専 門 日本近代法制史

主要業績 『概説日本法制史』 弘文堂 (2018) (分担執筆)

『近現代東アジアの地域秩序と日本』 大阪大学出版会
(2020) (分担執筆) ほか

著者略歴は刊行当時のものです。

海を渡った人形使節

国際人形交流から見た近代史

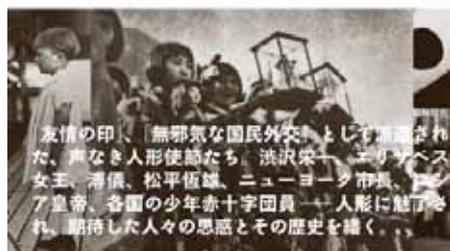
海を渡った
人形使節
国際人形交流
から見た近代史
ベレジコワ・タチアナ著

ISBN978-4-87259-735-6 C3021

奥付の初版発行年月：2021 年 08 月

ベレジコワ・タチアナ（Berezikova Tatiana）著

四六判 328 ページ 上製 定価 4100 円＋税 10%



国際人形交流という視点から描く、新しい近代史！

「友情の印」、「無邪気な国民外交」として派遣された、声なき人形使節たち。渋沢栄一、松平恆雄、ロシア皇帝、各国の少年赤十字団員、ニューヨーク市長、満洲国執政、イギリス女王——人形に魅了され、期待した人々の思惑とその歴史を繙く。

本書は、近代日本における国際人形交流の歴史を明らかにするものである。明治時代以降の日本における人形をめぐる思想の変化を分析することで、人形がどのように新しい文化的役割を担っていったかを示した。また、人形をめぐる国際関係の展開を丁寧に追い、現在まで全く注目されてこなかった少年赤十字の国際人形交流への貢献、国際人形交流の前例となった、「フランス流の玩具外交」の事例等のヨーロッパ諸国とのつながりについても考察する。近代において人形は国際関係を改善する存在として期待され、大きな力を持っていたものとして認識されていたことを示唆した。

第 1 章 人形の近代的役割

1. 教育と人形
2. 貿易と人形と玩具
3. 人形玩具趣味
4. 雛祭りの新しい役割

第 2 章 国際人形交流の揺籃

1. ファッション特使
2. フランス流の玩具外交
3. 人形の国際贈呈から子どもたちの交流へ
4. 「日米親善人形交流」

第 3 章 少年赤十字の役割

1. 少年赤十字の創立と国際通信交換の始まり
2. 日本少年赤十字の発展
3. 人形交流の始まり
4. 交流の発展
5. 交流の規模

第 4 章 人形交流の普及

1. 常磐松高等女学校
2. 日本 YWCA
3. 日本の玩具業界
4. 帝国児童教育会
5. 交流の拡大の理由

第 5 章 人形外交への展開

1. 「日満親善人形使節」
2. アメリカからの人形夫婦の訪日
3. パリへ贈られたミス東京
4. 「防共親善人形」
5. フランス流の玩具外交の復興

終章

著者略歴は刊行当時のものです。

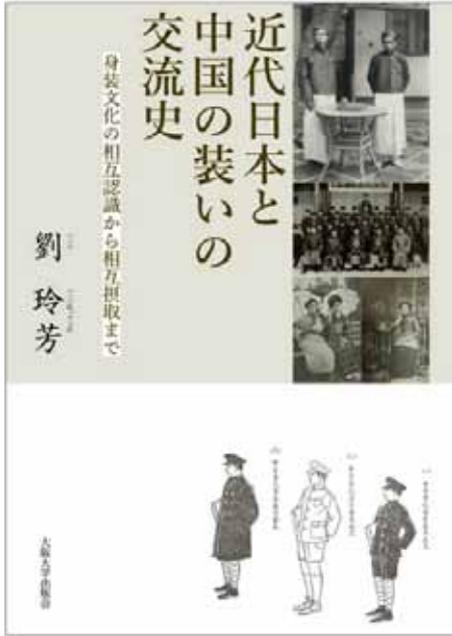
ベレジコワ・タチアナ（Berezikova Tatiana）（著）

1984 年ロシアのエカテリブルク市生まれ。博士（学術）。現在、大阪大学日本語日本文化教育センター特任助教。

主な論文に、「日本における人形の近代的役割—1920～40 年代の国際交流と外交を中心に」（『間谷論集』第 11 号）、「日本少年赤十字の国際人形交流」（一）（二）（『人形玩具研究』第 28 号）、「1920—30 年代における日本少年赤十字の「国際通信交換」」（『間谷論集』第 14 号）などがある。2018 年 6 月に日本人形玩具学会学会賞、2019 年 9 月に日本語日本文化教育研究会賞を受賞。

大阪大学出版会 学会特別割引販売のご案内

※ 10 月末日までのご注文に限り特価（定価の 2 割引）で販売いたします



近代日本と中国の 装いの交流史

身装文化の相互認識から相互摂取まで

ISBN978-4-87259-702-8 C3039

奥付の初版発行年月：2020 年 09 月

劉玲芳 (LIU LINGFANG) 著

A5 判 340 ページ 上製 定価 5400 円＋税 10%

芥川龍之介や女優らに粹に着こなされた「支那副」。
日本の学生服と密接な関係を持つ、孫文が着用した「中山服（人民服の原型）」。
日中戦争開戦前、両国で進む西欧化のなか、
日中の身装文化は交流する。

近代の日中において相手国の身装を着用する動機の違い、効果、影響の差異とは何だったのか。1900-1920 年代の日中の交流のなか、それぞれの文化に驚き、差別を生みながらも身装文化は双方で取り入れられていった。日本人も中国人も同じように、洋服がアジア人である自分たちには合わない服だと認識し、自国の伝統の服装も否定し、中国では日本の服装への、日本では中国の服装への憧憬が生まれていった。本書では「近代化＝西洋化」に拘泥するあまり見えにくくなっていた両国の交流、これまで曖昧だった学生装、日本の学生服、中山装について、歴史と実態も明らかにし、東アジア交流史の研究分野に新たな一視座を与えるものである。

第一部 身装文化の相互認識

第一章 中国人が「東遊日記」に描いた日本人の身装文化

- 一. 渡日した中国人と「東遊日記」
- 二. カルチャー・ショック
- 三. 明治維新後の洋装
- 四. 和服の歴史に関する記述
- 五. 賛否両論の日本人観
- 六. まとめ

第二章 1900—1910 年代における日本の対中貿易にみる中国人の身装文化

- 一. 対中貿易という視点からの身装文化の研究
- 二. 貿易資料に描かれた中国人の身装文化
- 三. 中国人の身装に関わった日本の商品
- 四. まとめ

第三章 1910—1920 年代における日本人の中国人に対する身装観

- 一. 中国研究の発展
- 二. 奇怪な風習
- 三. 奇妙な衣生活
- 四. 「支那服」優位論
- 五. まとめ

第二部 身装文化の相互摂取（一）

第四章 日本人男性と「支那服」

- 一. 「支那服」の話
- 二. 歌舞伎俳優の「支那服」
- 三. 知識人の「支那服」物語
- 四. 様々な日本人の「支那服」の体験
- 五. まとめ

第六章 日本の「学生服」から中国の「中山装」へ

- 一. 中国本土に現れた「学生服」
- 二. 「学生服」を着よう
- 三. 新型の「学生服」—「中山装」の誕生
- 四. まとめ

第三部 身装文化の相互摂取（二）

第七章 中国人女学生の身装にみる日本の影響

- 一. 女子留学生の身装の変化
- 二. 中国人女学生の「文明新装」
- 三. まとめ

第八章 清末民初の中国における「東洋髻」の起源と流行

- 一. 「東洋髻」の由緒
- 二. 「東洋髻」と近代日中の女子教育の交流
- 三. 一般女性の間に流行した「東洋髻」
- 四. まとめ

第九章 日本における「支那服」の流行

- 一. 資料と方法
- 二. メディアで語られた「支那服」
- 三. 支那服の流行の始まり
- 四. 流行期の到来—一般家庭へ
- 五. まとめ

著者略歴は刊行当時のものです。

劉玲芳 (LIU LINGFANG)

大阪大学日本語日本語文化教育センター特任助教。専門は日中文化交流史、服飾文化学、比較文化学。

大阪大学出版会 学会特別割引販売のご案内

※ 10月末日までのご注文に限り特価（定価の2割引）で販売いたします



近現代東アジアの 地域秩序と日本

ISBN978-4-87259-699-1 C3020

奥付の初版発行年月：2020年02月

瀧口剛 編著

A5判 428ページ 上製 定価 6000円＋税10%

20世紀東アジアの諸相—

複雑に絡み合う外交、国際協調の周縁、たび重なる戦争、安全保障・経済問題や価値観の対立。日米中の研究者が、緊張と対立が増す現代の問題にいかに対峙すべきか、歴史的見地から描き出す。

グローバル化が進む現代に至る国際・地域秩序は、政治・法・経済、文化システムが相互に緊密に絡み合う「複合性」をその特徴としている。東アジアにおいても複合性が深化し、経済や人的交流の面で相互依存が深まる一方で、安全保障や価値観の対立が激しさを増している。また北東アジア諸国だけでなく、英米や太平洋諸国との関係が大きな意味を持つようになったことにより、その複雑さは増した。これらに関係する主体相互の認識、構想が交錯するなかで形成される状況の積み重ねが、次の時代の諸相を形作った。

本書は、以上の観点を踏まえて日米中の政治史を専門とする研究者が、日本と東アジア諸国、欧米などの動向が交錯しつつ形成されてきたアジア秩序構想の歴史的生成を論じるものである。

はじめに 瀧口剛

I 帝国化する日本とアジア地域秩序構想——明治から大正へ

- 第一章 明治初期外交官による東アジア政策構想
—駐露公使榎本武揚の「北守南進」論— 醍醐龍馬
- 第二章 対外硬派のアジア認識—鈴木天眼の思想と行動—
片山慶隆
- 第三章 犬養毅の対外論—日清戦後を中心に— 久野洋

II 国際主義とアジア地域主義の相克——大正から昭和戦前期へ

- 第四章 第一次世界大戦期の対華国際借款団をめぐる日英関係
久保田裕次
- 第五章 満洲事変とワシントン体制—二つの国際協調の終焉—
中谷直司
- 第六章 大阪財界と戦時・大東亜共栄圏への道
—栗本勇之助と政治経済研究会— 瀧口剛
- 第七章 満洲国親属継承法と林鳳麟 小野博司
- 第八章 日本統治下の台湾における日中戦争観
—総督府の戦争記念活動を中心とした考察— 鄒燦

III 冷戦とアジア地域構想——昭和戦後期から現代へ

- 第九章 戦間期「新外交」論者と戦後冷戦秩序
—芦田均の積極的再軍備論— 矢嶋光
- 第十章 F・D・ローズヴェルトの戦後アジア構想
—中国大国化の条件— 高橋慶吉
- 第十一章 日韓国交正常化交渉（一九五〇～一九六〇）と日本外務省の対北朝鮮外交方針
—在朝鮮日本財産処理方針の分析を通じて— 野間俊希
- 第十二章 現代中国政治における「毛沢東思想」の再定義と日中関係—月刊誌『中国研究』に見る同時代の語り—
田中仁

瀧口剛（編著）（タキグチ ツヨシ）

大阪大学大学院法学研究科教授。専門は日本政治史、ウマ）
小樽商科大学商学部准教授、専門は日本政治外交史、日露関係史。

片山慶隆（著）（カタヤマ ヨシタカ）

関西外国語大学英語国際学部准教授。専門は、日本近代史。

久野洋（著）（ヒサノ ヨウ）

日本学術振興会特別研究員 PD。専門は、日本近代史。

久保田裕次（著）（クボタ ユウジ）

国土館大学文学部専任講師。専門は、日本近現代史。

中谷直司（著）（ナカタニ タダシ）

帝京大学文学部社会学部准教授。専門は、日本外交史・国際関係史。

小野博司（著）（オノ ヒロシ）

神戸大学大学院法学研究科准教授。専門は、日本法制史。

鄒燦（著）（スウサン）

大阪大学大学院国際公共政策研究科助教。専門は、近代日中関係史、日中戦争史。

矢嶋光（著）（ヤジマ アキラ）

名城大学法学部准教授。専門は、日本政治外交史。

高橋慶吉（著）（タカハシ ケイキチ）

大阪大学大学院法学研究科准教授。専門は、アメリカ外交史。

野間俊希（著）（ノマトシキ）

国立国会図書館職員。専門は、日本政治外交史。

田中仁（著）（タナカ ヒトシ）

中国・南開大学講座教授（大阪大学大学院法学研究科教授）。専門は、中国政治史、20世紀中国政治。

著者略歴は刊行当時のものです。

大阪大学出版会 学会特別割引販売のご案内

※ 10 月末日までのご注文に限り特価（定価の 2 割引）で販売いたします

帝国日本の統治法

内地と植民地朝鮮・台湾の地方制度を焦点とする

山中永之佑

YOSHINOBU YAMANAKA



大阪大学出版会

帝国日本の統治法

内地と植民地朝鮮・台湾の地方制度を 焦点とする

ISBN978-4-87259-676-2 C3032

奥付の初版発行年月：2020 年 03 月

山中永之佑 著

A5 判 990 ページ 上製 定価 15000 円+税 10%

帝国日本の支配の全体像をとらえるためには、植民地朝鮮、台湾についてもその法制度を研究することが不可欠である。近年、日本及び両国で公表されてきた研究も含め、市町村に当たる小さな単位に至るまで、その地方制度がどのようなになっていたか、そして実際にはその制度の下でどのように人々が行動したかを解明。

本書は、地方制度を焦点として、戦前の植民地帝国日本の統治法を研究し、その基本構造を明らかにしようとしたものである。戦前の日本は、周知のように、朝鮮・台湾を主たる植民地として領有し、内地を中心として植民地帝国を形成していた。しかし、従来の日本近代法（制）史の研究は、私自身の研究も含め、内地のみか、或いは内地を中心に行われ、植民地法に言及する場合も、ほとんどは一節を設けて論及する程度で、内地法と植民地法の両者を帝国日本の法として一体化して捉え追究するという視点は、あまり見られなかった。しかし、このような視点は帝国日本の植民地支配に対する批判と反省の意味をも含む日本近代法史研究の視点として不可欠なものであると、私は考えている…（本書「はしがき」より）

第 I 部 帝国日本の成立と内地・朝鮮・台湾の統治法

序章 本書の意図

第一章 普選・治安維持法体制の成立と地方制度の改正及び行政救済法

第一節 考察の対象とする内地の地方制度の範囲
—1929 年地方制度を考察の対象としない理由

第二節 1911 年の市制・町村制改正と地方改良運動

第三節 普選・治安維持法体制の形成・成立

第四節 普選・治安維持法体制形成・成立期の地方制度改正及び行政救済法

第二章 朝鮮における 1920 年の地方制度改正と軍事、治安・教育法体制

第一節 内地（法）延長主義と律令・制令
—植民地朝鮮・台湾における統治法考察への序

第二節 「文化政治」と軍事、治安・教育法体制の再編、強化

第三節 1920 年の地方制度改正と行政救済制度の不施行

第三章 台湾における 1920 年の地方制度改正と軍事、治安・教育体制

第一節 軍事、治安・教育法体制

第二節 1920 年の地方制度改正と 1922 年の訴願法施行

第四章 むすびにかえて

第 II 部 準戦時・戦時法体制形成・成立・崩壊期の内地・朝鮮・台湾の統治法

—地方制度を焦点とする

第一章 1929 年の地方制度改正から 1943 年の地方制度改正へ

第一節 内地における法・政策の展開

第二節 1929 年の地方制度改正から 1943 年の地方制度改正へ

第二章 朝鮮における 1930 年の地方制度改正

第一節 朝鮮における法・政策の展開

第二節 1930 年地方制度改正に至る前後の諸状況

第三節 1930 年地方制度改正の立法化に関連する諸動向

第四節 1930 年地方制度改正と選挙及びその後の主な地方制度関係立法

第三章 台湾における 1935 年の地方制度改正

第一節 台湾における法・政策の展開

第二節 1935 年地方制度改正の成立過程

—民間側の動きを中心に

第三節 1935 年地方制度改正の成立過程

—総督府側の動きとそれに対応する民間側の動きを中心に

第四節 1935 年地方制度改正と選挙

終章 帝国日本の統治法の基本構造

—内地・植民地朝鮮・台湾の地方制度を焦点とする

第一節 準戦時・戦時法体制の形成・成立・崩壊期における内地・朝鮮・台湾の地方制度の比較

第二節 むすびにかえて

著者略歴は刊行当時のものです。

山中永之佑（ヤマナカエイノスケ）

1953 年大阪大学法経学部法学科卒業。

現在、大阪大学名誉教授・法学博士（大阪大学）。

専門は日本近代法制史。

大阪大学出版会 学会特別割引販売のご案内

※ 10 月末日までのご注文に限り特価（定価の 2 割引）で販売いたします



〈あいだ〉に生きる ある沖縄女性をめぐる経験の歴史学

ISBN978-4-87259-635-9 C3022

奥付の初版発行年月：2019 年 03 月

富永 悠介 著

A5 判 328 ページ 上製 定価 5500 円＋税 10%

第二次世界大戦を挟む激動の 20 世紀に翻弄されながら、沖縄と台湾を舞台に生き抜いた女性・宮城菊。彼女が記したノートと聞き取り、周囲の関係者へのインタビューから台湾・沖縄・朝鮮・日本の関係史を描きなおす。国、言葉、貧困、戦争、信仰——さまざまな〈境界〉のなかで生きる人びとから見える、新たな歴史像。

一九八〇年代における台湾の民主化はアカデミズムにも影響を及ぼした。それまで中国史の枠組みで理解されてきた台湾史は、台湾住民を主体とする歴史叙述へと転換された。その一方で台湾史研究者の呉密察は「台湾史は台湾の内部に根ざさねばならないと同時に、より大きな国際的文脈から把握する必要があるだろう」と述べている。本書では、そうした台湾史研究の変遷と問題提起を念頭に置きながら宮城菊の軌跡を辿る。そして、菊の軌跡を「台湾史」や「日本史」といった枠組みや「台湾と沖縄」「台湾と日本」のような地域間関係に局限するのではなく、東アジアが絡まり合う関係性のなかで検討することを目指している。なぜなら、菊の歩みそのものがすでに一国史的枠組みや国家・地域加算式枠組みでは切り取ることのできない広がりを含んでいるからである…（本書「序章」より）

序章 軌跡を辿り、歴史を開く—経験の歴史学に向けて

- 第一節 問題意識—写真に刻まれた出会い
- 第二節 先行研究
- 第三節 研究方法
- 第四節 本書の構成

第一章 沖縄から台湾へ—経験のゆくえと生存のかたち 1

- 第一節 経験の束としての語り—西新町と社寮島
- 第二節 西新町の暮らし、辻への身売り
- 第三節 琉球舞踊と読み書き

第二章 植民地台湾での暮らし—経験のゆくえと生存のかたち 2

- 第一節 日本軍と観光が同居する真砂町
- 第二節 琉球舞踊と琉球人差別
- 第三節 旅館女中という経験
- 第四節 鄭用錫との出会い

第三章 基隆「水産」地域の形成と発展

—国際港湾都市・基隆としての面目

- 第一節 国際部落としての「水産」地域
- 第二節 衛生と都市の「体面」
- 第三節 三沙湾漁港移転をめぐる言説—コレラ・美観・貧困
- 第四節 「水産」地域の両義的側面
—「基隆市営漁民住宅」設置の理由から
- 第五節 内地と外地を繋ぐ「水産」地域
- 第六節 国際港湾都市・基隆と「水産」地域

第四章 『無言の丘』の歴史叙述—経験・場・東アジア

- 第一節 台湾ニューシネマと『無言の丘』
- 第二節 『無言の丘』の登場人物—経験の未決定性
- 第三節 呉念真にとっての「無縁」
- 第四節 『無言の丘』が開く歴史—もう一つの「水産」地域として

第五節 韓服女性と「無縁の墓」

第五章 顕現する東アジア—経験のゆくえと生存のかたち 3

- 第一節 「鄭菊」
- 第二節 「水産」地域の戦後空間
- 第三節 出会いのゆくえ—戦後「水産」地域の帝国日本
- 第四節 心の「不安」と琉球舞踊

第六章 喜友名嗣正が見た沖縄／日本

- 第一節 琉球独立運動と「琉球人民協会」
- 第二節 琉球独立運動の特徴
- 第三節 二つの変革論と棄民の強制
- 第四節 「琉球人民協会」の結成とその活動
- 第五節 喜友名は「生活支援者」だったのか？
- 第六節 霧社を訪ねて—「空白」の意味

第七章 菊のキリスト教実践—経験のゆくえと生存のかたち 4

- 第一節 キリスト教との出会い
- 第二節 「菊さんノート」の史的 성격
- 第三節 戦後台湾での信仰
- 第四節 沖縄での信仰
- 第五節 経験を「書く」「読む」「語る」「聞く」

終章 「菊」から「私たち」の物語へ

- 第一節 「水産」地域の現在
- 第二節 「宮城菊姉を偲ぶ会」に参加して
- 第三節 「生存」の同時代的企て

富永 悠介 (著) (トミナガ ユウスケ)

大阪大学大学院文学研究科博士後期課程修了。現在、タイ王国チェンマイ大学人文学部東洋言語学科日本語専攻講師。

著者略歴は刊行当時のものです。



植民暴力の記憶と日本人 台湾高地先住民と脱植民の運動

ISBN978-4-87259-609-0 C3022

奥付の初版発行年月：2018 年 03 月

中村 平 著

A5 判 250 ページ 上製 定価 5000 円＋税 10%

帝国日本のコロニアリズムが植民された人々のみならず植民側の歴史認識にも影響を与えてきたことを明らかにする。日本人と台湾高地先住民のコロニアルな出会いの歴史経験を民族誌として詳細に記述し、社会を構成する力と生きる力を現場から問い直すことで、脱植民運動に「日本人」が参画していく道を切り開く。

…本書を通じて論じるように、脱植民化とは、既存の植民的—コロニアル—な政治への反省に立って、新しい政治とそれを担う言語を獲得することであり、状況を切り拓く（潜勢）力を明らかにすることだろう…本書は、植民主義の暴力を問題化する「コンタクト・ゾーン」という視角から、日本人と台湾高地先住民のコロニアルな出会いの歴史経験を民族誌として詳細に記述している。植民地統治を経た台湾先住民は現在、脱植民（脱植民主義）という課題を明確にしている。私がフィールドで出会った暴力の記憶は、未だにそれが癒されていないという意味で植民主義の磁場から脱しえていない。これを可視化し記述する本書は、脱植民という植民主義を克服する運動を、植民暴力の記憶の聞き書きから捉え記述するものである。脱植民の課題は被統治者のものだけではなく、植民側の歴史認識を問うものであることが理解される…（本書「序章」より）

第 1 章 脱植民化の課題と植民暴力の記憶、植民地責任

- 第 1 節 脱植民化を主張する台湾先住民の知識人
- 第 2 節 脱植民化
- 第 3 節 脱植民化に向かう体験と声の記述
- 第 4 節 日本の植民地責任と暴力の記憶の分有
- 第 5 節 コンタクト・ゾーンに到来する植民暴力の記憶と応答責任

第 2 章 植民暴力の常態化としての「和解」

—「帰順」をめぐる日本とタイヤルの解釈

- 第 1 節 植民された側による「糾弾しない語り」
- 第 2 節 「糾弾しない語り」の聞きかた
- 第 3 節 エヘン集落にせまる植民地侵略戦争
- 第 4 節 「ガオガン蕃討伐」とエヘン集落の「帰順」
- 第 5 節 「帰順」は「仲良くする」（スブラック）なのか
- 第 6 節 日本人が日本語を用いて聞き書きすることの制約
- 第 7 節 語りが生み出されるコンテクスト
- 第 8 節 「糾弾する語り」について、そして二分法の破綻

第 3 章 ムルファーから頭目へ呼びかけられる天皇と日本

- 第 1 節 タイヤルの伝統的政治システム
- 第 2 節 エヘン集落「頭目」の誕生
- 第 3 節 頭目をとりまく緊張した磁場
- 第 4 節 頭目ワタン・アモイ以降
- 第 5 節 「天皇は日本のムルファー」という表現に出会う
- 第 6 節 語りを生み出す構造、語りが生み出しているもの
- 第 7 節 二つのシステムのせめぎ合いと呼びかけられる天皇と日本

第 4 章 植民暴力の記憶と日本人の責任

- 第 1 節 日本植民地・台湾に関わる植民暴力の記憶と語り

- 第 2 節 「私たち」を自称する自治運動と脱植民化運動

- 第 3 節 タイヤルに想起される歴史と暴力の記憶群

- 第 4 節 日本人である私がどう聞くのか

- 第 5 節 ヤキ・ピスイが私に語る記憶

- 第 6 節 暴力の記憶の分有を通して植民地責任を取っていく民族誌

第 5 章 「理蕃」の認識論—植民化・資本主義的近代化と植民暴力

はじめに 統治のメカニズムと記憶の分有

- 第 1 節 台湾北部高地における先住民の土地と生の囲い込み

- 第 2 節 植民的差異概念と人類学知識

- 第 3 節 「理蕃」における植民的差異の実体化と「日本人になる」こと

終章 脱植民の運動

参考資料：

1. 「台湾先住民族権利宣言」
2. 「タイヤル古国復活論」「独立主権の国“タイヤル国”」「タイヤル民族議会紹介」「タイヤル民族議会憲法草案」「タイヤル民族土地宣言」

中村 平 (著) (ナカムラ タイラ)

広島大学大学院文学研究科准教授。

2007 年博士（大阪大学、文学）。2001 年修士（台湾大学、文学）。日本学術振興会特別研究員、非常勤講師、韓国漢陽大学校助教などを経て現職。人類学・思想史・歴史学・日本学といった領域で研究している。

大阪大学出版会 学会特別割引販売のご案内

※ 10月末日までのご注文に限り特価（定価の2割引）で販売いたします



帝国日本の移動と動員

ISBN978-4-87259-596-3 C3021

奥付の初版発行年月：2018年02月

今西一、飯塚一幸 編

A5判 364ページ 上製 定価 5800円＋税10%

日本がアジアに侵略した時代。朝鮮沿岸への出漁、台湾高地での土地の囲い込み、満州の鉱業移民他を検証、国内、硫黄島の住民問題、また朝鮮における愛国婦人会活動、在韓日本人女性の帰還ほか全10章に亘って詳細に論じる。

日本の海外「移民」の歴史は、南方の「からゆきさん」や北方の「娘子軍」のような娼妓の「移民」が、明治の初年から見られるが、大量の組織的な海外「移民」は、一八八六年の官約ハワイ移民からである。一九世紀末から二〇世紀初頭の日本の海外「移民」は、オーストラリア、南北アメリカ、メキシコ、フィリピンなど非植民地が中心であるが、特にハワイやブラジルに多く、農業と商業が中心であった。そして、明治維新以降の北海道や沖縄・小笠原などの「国内植民地」への侵略はあるが、帝国日本としてアジア侵略が始まると、台湾、南樺太、朝鮮、「満洲」、南洋と植民地への海外「移民」が拡大している。

日本の海外「移民」の特徴は、本来「移民」は経済的に貧しい地域・国から豊かな地域・国に移動するのだが、貧しい植民地アジアに多い点をどう説明するのかという議論がある…（本書「序章」より）

序章 「満洲移民」研究の問題点

第一部 帝国の形成

- 第一章 日清戦争前後の「朝鮮通漁」と出漁者団体の形成
— 朝鮮漁業協会を中心に
- 第二章 明治の技師山本小源太の軌跡
— 府県農事試験場から韓国統監府へ
- 第三章 台湾高地先住民の土地と生の囲い込み
— 日本植民国家—資本による人間分類と「理蕃」

第二部 帝国の膨張

- 第四章 樺太における「国内植民地」の形成
— 「国内化」と「植民地化」
- 第五章 満洲鉱業移民構想の成立と挫折
— 北票炭鉱と鶴岡炭鉱の事例から
- 第六章 北硫黄島民の生活史における移動とディアスポラ化
— 全島強制疎開から〈不作為の作為〉としての故郷喪失へ

第三部 帝国とジェンダー

- 第七章 植民地朝鮮における妓生の再組織化と社会的活動
- 第八章 明治大正期の樺太・サハリンにおける公娼と半公娼
- 第九章 植民地朝鮮における愛国婦人会
— 併合から満州事変までの軍事援護と救済活動
- 第十章 在韓日本人女性の戦後—引揚げと帰国のはざま

今西一（編）（いまにしはじめ）

大阪大学大学院文学研究科招聘教授・小樽商科大学名誉教授

飯塚一幸（編）（いづかかずゆき）

大阪大学大学院文学研究科教授

石川亮太（著）（いしかわりょうた）

立命館大学経営学部教授

中村平（著）（なかむらたいら）

広島大学大学院文学研究科准教授

天野尚樹（著）（あまのなおき）

山形大学人文社会科学部准教授

三木理史（著）（みきまさふみ）

奈良大学文学部教授

石原俊（著）（いしはらしゅん）

明治学院大学社会学部教授

水谷清佳（著）（みずたにさやか）

東京成徳大学人文学部国際言語文化学科准教授

井濤裕（著）（いたにひろし）

北海道大学スラブ研究センター研究員

広瀬玲子（著）（ひろせれいこ）

北海道情報大学情報メディア学部教授

玄武岩（著）（ひょんむあん）

北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究員准教授

大阪大学出版会 学会特別割引販売のご案内

※ 10 月末日までのご注文に限り特価（定価の 2 割引）で販売いたします



「盧溝橋事件記念日」をめぐる 日本と中国

政治的語りに見る日中戦争像の比較研究

ISBN978-4-87259-594-9 C3020

奥付の初版発行年月：2018 年 02 月

鄒燦 著

四六判 294 ページ 上製 定価 4700 円+税 10%

本書は、盧溝橋事件を発端とする日中全面戦争期の日本と中国において、「七月七日」が如何に戦時国民動員に結び付けて記念されたかを比較検討し、その過程で構築された日中戦争像の差異を考察したものである。同時代の戦争認識の形成過程と、そこに生じた両国の差異がどのように戦後に継承されたかを問う。

…一九三七年七月七日、北平（現在の北京）近郊の盧溝橋で発生した日中両軍の衝突は八月なかばには全面戦争に発展した。本書は、この盧溝橋事件を発端とする日中戦争勃発から終戦前夜まで、共に戦時体制を強いられた日本と中国を四つの異なる政治空間（日本本土、日本軍による中国占領地、重慶国民政府が管轄する「国統区」、中共が支配する抗日根拠地）において、それぞれの権力の主体（日本政府、対日協力の汪精衛政権、重慶国民政府、中共政権）が、七月七日の盧溝橋事件を戦争動員あるいは政治宣伝の必要に応じてどのように記念し、それぞれの戦争解釈を支配下にある国民にどのように語ったのかを復元することによって、日本と中国の戦争認識に関わる差異（「加害」と「被害」、「敗戦」と「戦勝」）を検証する。…（本書「はしがき」より）

序章 本書の研究課題

- 第一節 問題関心—戦争認識の比較研究
- 第二節 戦後を対象とする先行研究とその問題点
- 第三節 戦時動員と戦争認識の構築—集合的記憶というアプローチ
- 第四節 なぜ「盧溝橋事件記念日」なのか
- 第五節 本書の構成と主要資料

第一章 聖戦の語り—日本本土における「支那事变周年記念」

加害不在の日中戦争像

- 第一節 盧溝橋事件の勃発と「自衛戦」観の流布
- 第二節 大義名分のない戦争と「聖戦」の提起
- 第三節 「支那事变周年記念」要綱と「聖戦」の語りの構造
- 第四節 事变周年記念活動に見る日本社会の日中戦争像
- おわりに 「聖戦」の語りの変貌と「支那」の不在

第二章 平和の語り—中国占領地に見る盧溝橋事件記念活動の諸相と対日協力政権のジレンマ

- 第一節 「聖戦」記念日の影響と抗日宣伝に対する反宣伝
- 第二節 占領地における「七七記念」の相とその特徴
- 第三節 「七七記念」の意義と「日中平和」
- おわりに 「平和」の語りの破綻と政権正当性の喪失

第三章 建国の語り—重慶国民政府による「抗戦建国記念日と抗戦像の構築

- 第一節 未完の建国プロセスと戦時体制の発足

第二節 「抗戦建国記念日」と「建国」の語りの構成

第三節 「国統区」における記念活動の展開

おわりに 「建国」の語りの継続と陸軍記念節としての「七七」

第四章 革命の語り—ヘゲモニー争いを内包する中国共産党根拠地の「七七記念」

第一節 中共革命の路線転換と「抗日民族革命」

第二節 「辺区政府」にとっての抗戦建国記念日

第三節 根拠地を中心とする中共式「七七記念」

おわりに 「革命」の語りの独占と選別された抗戦像の継承

終章 「盧溝橋事件記念日」に見る日中の戦争認識の差異

第一節 日中戦争像の構築を伴う「真実」と「忘却」

第二節 日本と中国の戦争認識における差異

第三節 日中の異なる戦後とそれぞれの継承された戦争認識

鄒燦(著)(スウ サン)

中国湖南省出身。

2008 年中国南開大学歴史学院卒業、2011 年同学院で修士課程修了。2016 年大阪大学法学研究科で博士(法学)取得。専門は日中戦争史、近代日中関係史。現在大阪大学大学院国際公共政策研究科助教。

大阪大学出版会 学会特別割引販売のご案内

※ 10月末日までのご注文に限り特価（定価の2割引）で販売いたします



宇宙の研究開発利用の歴史 日本はいかに取り組んできたか

IISBN978-4-87259-748-6 C3030

奥付の初版発行年月：2022年03月

渡邊浩崇 編

A5判 460ページ 上製 定価 6300円＋税 10%

宇宙研究開発の軌跡——科学技術・産業の歴史と政策・法制度の歴史

アポロ計画などの宇宙開発史・宇宙科学技術史、ソ連の人工衛星打ち上げに端を発する宇宙法制史・宇宙政策史、宇宙計画を支えてきた各企業の宇宙産業史から、日本・世界の宇宙政策や宇宙計画に関する歴史の全体像を提示する。

●本書の構成

第1部 日本の宇宙政策や宇宙計画に関する歴史

日本の宇宙政策の始まりから現在までの変遷を、自主路線と国際協力に注目して検証する。日本の宇宙政策は政治外交において、そして体制・組織として、どのように位置づけられてきたのか。

第2部 欧米、ロシアの宇宙政策・宇宙計画史

アメリカのアポロ計画を国際競争・協力の観点から再検討したうえで、ソ連・ロシアの宇宙活動の歴史を詳らかにする。

第3部 日本の民間企業の宇宙事業史

日本の宇宙政策では、ロケットや人工衛星の研究開発をできるだけ多くの企業に分類分担させ、宇宙産業全体を育成するという方針が取られてきた。三菱重工・IHI・川崎重工・三菱電機・日本電気（NEC）の研究開発史を、各企業の開発担当者が詳細に紹介する。

第1部 日本の宇宙政策・計画の歴史

第1章 日本の宇宙政策の歴史と現状—自主路線と国際協力—

第2章 国会における宇宙政策の議論

第3章 宇宙開発事業団の歴史

第4章 日本の宇宙科学、発展の系譜と現在—宇宙科学研究所を中心として—

第5章 宇宙と安全保障の歴史

第2部 米露欧の宇宙政策・計画の歴史

第6章 アメリカ宇宙政策の歴史—アポロ計画を中心として—

第7章 ソ連・ロシア宇宙活動史の一面—月計画からミールへの移行—

第8章 ヨーロッパ宇宙政策の歴史—ヨーロッパ宇宙機関を中心として—

第3部 日本の宇宙産業の歴史

第9章 三菱重工の宇宙事業の歴史

第10章 IHIの宇宙事業の歴史

第11章 川崎重工の宇宙事業の歴史

第12章 三菱電機の宇宙事業の歴史

第13章 NECの宇宙事業の歴史

渡邊浩崇（編）（ワタナベヒロタカ）

大阪大学 CO デザインセンター特任教授、同大学院法学研究科招へい教員。専門は、国際政治学、外交史、宇宙政策、宇宙法。

榎孝浩（著）（エノキタカヒロ）

国立国会図書館利用者サービス部科学技術・経済課。

橋本靖明（著）（ハシモトヤスアキ）

防衛省防衛研究所主任研究官、前政策研究部長。専門は国際法（海洋法、航空法、宇宙法、サイバー法など）や安全保障法制。

佐藤雅彦（著）（サトウマサヒコ）

宇宙航空研究開発機構（JAXA）評価・監査部長、ワーク・ライフ変革推進室長兼務、JAXA 法務スペシャリスト。

斎藤紀男（著）（サイトウノリオ）

（公財）日本宇宙少年団（YAC）相談役、スペースゼロワン代表。宇宙開発事業団（NASDA）元副本部長。

稲谷芳文（著）（イナタニヨシフミ）

宇宙航空研究開発機構（JAXA）参与、名誉教授。専門は航空宇宙工学、高速空気力学、再突入飛行および宇宙輸送システム。

富田信之（著）（トミタノブユキ）

東京都市大学（元武蔵工業大学）名誉教授。専門は宇宙システム学、宇宙活動史。

武藤正紀（著）（ムトウマサノリ）

株式会社三菱総合研究所フロンティア・テクノロジー本部主任研究員。

小笠原宏（著）（オガサワラコウ）

東京理科大学理工学部教授、博士（工学）。三菱重工（株）元技師長。

志佐陽（著）（シサキラ）

株式会社IHI航空・宇宙・防衛事業領域宇宙開発事業推進部事業企画グループ部長。

久保田伸幸（著）（クボタノブユキ）

川崎重工工業株式会社航空宇宙システムカンパニー航空宇宙ディビジョン防衛宇宙プロジェクト総括部宇宙システム設計部統括基幹職。

小山浩（著）（コヤマヒロシ）

三菱電機株式会社電子システム事業本部主席技監。

安達昌紀（著）（アダチマサキ）

一般財団法人宇宙システム開発利用推進機構・常務理事。

おわりに

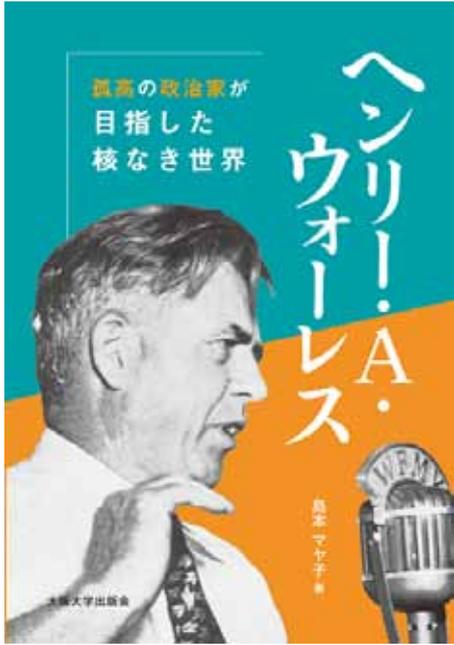
日本の主な政府系衛星一覧

宇宙関連年表

著者略歴は刊行当時のものです。

大阪大学出版会 学会特別割引販売のご案内

※ 10月末日までのご注文に限り特価（定価の2割引）で販売いたします



ヘンリー・A・ウォーレス 孤高の政治家が目指した核なき世界

ISBN978-4-87259-719-6 C3031

奥付の初版発行年月：2020年11月

島本マヤ子 著

A5判 300ページ 上製 定価 5500円+税10%

もし大統領になったのがトルーマンでなく彼だったら世界は変わっていたかもしれない。歴史から消えた知られざる孤高のヒーロー。

もし大統領になったのがトルーマンでなく彼だったら、世界は変わっていたかもしれない——

ルーズベルト政権下で農務長官、副大統領を歴任したウォーレスは、豊富な科学知識やアインシュタインら科学者との信頼関係をもとに、世界平和を見据えた原子力技術管理、権利や利益を独占しない市民国家としてのアメリカを構想していた。しかし、男女平等、黒人差別撤廃、反植民地主義などのリベラルで進歩的な世界観は当時のアメリカ国内で孤立し、ウォーレスは表舞台から放逐されて、アメリカは原爆投下、冷戦への道をたどることになった。時代の先を行きすぎ、歴史の分かれ目からこぼれた孤高のヒーローが目指したもう一つのアメリカ。

序章 ウォーレスはなぜアメリカの核独占に反対したか

第1章 ウォーレスの政治経歴と先行研究

- 1 ヘンリー・A・ウォーレスの生涯
- 2 ヘンリー・ウォーレスに関する研究
- 3 本書の立場

第2章 ウォーレスと原爆科学者との接点

- 1 政策決定の初期過程
- 2 マンハッタン計画の開始
- 3 軋み始める英米関係

第3章 ウォーレスの世界秩序はどのように構想されたのか

- 1 ニールス・ボーアが唱えた異議
- 2 スティムソン提案に対する反応
- 3 科学者らの懸念
- 4 トルーマン大統領に対する国民の反応
- 5 演説「原子力時代の意義」

第4章 ウォーレスの原子力時代構想

- 1 三か国共同宣言
- 2 バーンズ國務長官の原子力政策
- 3 上院委員会における国際管理に関する議論
- 4 ウォーレスの原子力構想
- 5 国連原子力委員会の設立

第5章 冷戦戦士に挑戦して

- 1 衰退していく国際主義
- 2 対ソ強硬政策
- 3 冷戦戦士に挑む
- 4 孤高の異端者ウォーレス

終章 統一された世界を目指して

エピローグ

- 1 ジャーナリストとして再出発
- 2 ウォーレスの原子力計画
- 3 進歩党の敗北
- 4 スティムソン、見解を語る
- 5 ウォーレスの死亡記事

著者略歴は刊行当時のものです。

島本マヤ子（シマモトマヤコ）（著）

大阪大学招聘研究員。大阪大学大学院言語文化研究科言語社会専攻博士後期課程修了。博士（言語文化）。主な著書（いずれも共著）に、Historical Dictionary of Japanese Foreign Policy (Lanham, MD, 2015)、『アジア太平洋地域の政治・社会・国際関係・歴史的発展と今後の展望』（明石書店、2018年）、『日本とフィンランドの出会いとつながり』（大学教育出版、2019年）等がある。専門は冷戦初期のアメリカ史、日米原子力政策。

大阪大学出版会 学会特別割引販売のご案内

※ 10月末日までのご注文に限り特価（定価の2割引）で販売いたします



対抗文化史 冷戦期日本の表現と運動

ISBN978-4-87259-739-4 C3000

奥付の初版発行年月：2021年10月

宇野田尚哉，坪井秀人 編著

A5判 370ページ 上製 定価 5500円＋税 10%

冷戦構造下の日本で、対アメリカ従属を前提とするのではない別のあり方＝対抗文化を目指す表現者たちは、作品を生み出すなかでいかなる対抗的表現を展開してきたのか。表現と想像力、社会の豊かな関係性をたどる。

敗戦後の日本の歩みは米軍占領下から始まった。すでに始まっていた冷戦に規定されて、対日占領政策の基調は、非軍事化・民主化から、経済復興・反共防波堤建設へと変化していく。日本が独立を回復したのは冷戦下の局地的熱戦としての朝鮮戦争のもと、アメリカの同盟国としてであり、以後、対米従属のもとでの経済復興・経済成長が政治的・経済的基調となり、社会や文化の動向もそれに強く規定されることになった。

しかし、冷戦期の日本においては、基地や核やアジア諸国との関係をめぐって、あるいは同時期に進行した高度経済成長にともなう諸矛盾をめぐって、この基調にそって発想することを自明の前提とせず、別のあり方を構想しようとする想像力をそなえた人々が数多く存在していた。本書はそのような人々の遺した多様な表現を「対抗文化」と捉え、表現と社会の関わりを重視しつつ、文学・思想史・歴史学・社会学などの人文社会科学から実像に迫る。

序論 宇野田尚哉

第1部 1945～1959

- 第1章 戦後大阪の華僑系新聞と在日朝鮮人—東アジア現代史のなかの『国際新聞』宇野田尚哉
- 第2章 山代巴の原点—処女作「露のとう」をめぐってキアラ・コマストリ
- 第3章 被爆者支援運動と手記集『原爆に生きて』川口隆行
- 第4章 胎児が密猟するまで—原水爆禁止運動と生政治 木下千花
- 第5章 「地域」の再発見—基地闘争下の共同制作童話「山が泣いてる」森岡卓司
- 第6章 きりえ画家・滝平二郎の誕生—連環画から挿絵へ 鳥羽耕史

第2部 1960～1979

- 第7章 問い直される大学の境界—1968～69年東大闘争 小杉亮子
- 第8章 バリケードの中の五木寛之—放浪、引揚げ、学生運動 ニコラス・ランブレクト
- 第9章 路上の詩想—寺山修司と〈1968〉坪井秀人
- 第10章 1970年前後、在日朝鮮人文学者の言語論—文学批評の言語論的転回を背景として 佐藤 泉
- 第11章 『日本沈没』の沈没—1973年の日本の心性史 成田龍一
- 第12章 富山妙子の目に映った韓国—《朝鮮風景》からスライド『倒れた者への祈祷』まで 徐 潤雅

第3部 1980～1989

- 第13章 文学者の反核声明と韓国民主化支援の時代—HIROSHIMA・冷戦・光州 高 榮蘭
- 第14章 ポストリブの時代における「母性」の問題—津島佑子「伏姫」を手がかりに 村上克尚
- 第15章 ドキュメンタリー映画の闘争—「山谷（やま）やられたらやりかえせ」を読む 石川 巧
- 第16章 1980年代とサブカルチャー—大塚英志さんに聞く あとがき 坪井秀人

著者略歴は刊行当時のものです。

宇野田尚哉（編著）（ウノダシヨウヤ）

大阪大学大学院文学研究科教授。

主著に『「サークルの時代」を読む—戦後文化運動研究への招待』（共編著、影書房、2016年）など。

坪井秀人（編著）（ツボイヒデト）

国際日本文化研究センター教授。

主著に『戦後日本を読みかえる』全6巻（編著、臨川書店、2018-2019年）など。

大阪大学出版会 学会特別割引販売のご案内

※ 10 月末日までのご注文に限り特価（定価の 2 割引）で販売いたします

緒方洪庵全集第五巻 書状（その二） その他文書 （附） 適塾姓名録

緒方洪庵全集 第五巻
書状（その二） その他文書
（附） 適塾姓名録

適塾記念会緒方洪庵全集編集委員会 編集

大阪大学出版会

ISBN978-4-87259-741-7 C3321

奥付の初版発行年月：2022 年 03 月

適塾記念会緒方洪庵全集編集委員会 編／村田路人、尾崎真理 責任編集
A5 判 660 ページ 上製函入 定価 13000 円＋税 10%

第四巻に収録した箕作秋坪宛書状を除く全書状、適塾を津村東之町から過書町に移転させたときに要した諸費用を書き上げた帳面などの洪庵自筆文書、洪庵の署名がある除痘館関係文書、および附録として「適塾姓名録」を収録した。

【書状】 洪庵の書状は特にその晩年期の業績や洪庵の思考を知る上で得がたいものである。本書では、現段階において確認できるすべての洪庵書状について、改めて原物（原物の鮮明な写真等含む）を確認し、釈文および註を作成した。本書に収録した洪庵書状の宛先は全八八人、書状の数は計二四八通にのぼる。

【その他文書】 「A 洪庵・適塾関係文書」と「B 除痘館関係文書」に分かれる。

【（附） 適塾姓名録】 この「姓名録」は、複製版が刊行され国内の図書館に配架されている。しかしこの複製版には貼紙・紙片が反映されておらず、付紙が糊付けされている位置についても本来の場所と異なっている箇所が少なくない。本書の刊行にあたり、可能な限り原本に忠実に「姓名録」の翻刻を行い、釈文には付紙なども反映させた。

書状（その二）

青木周弼、青木研蔵、秋山弥左衛門、有馬辰三郎、有吉文郁、安東駿蔵、池上謙策、池田多仲、池田良輔、石井宗謙、石坂堅壯、伊藤圭介、伊藤慎蔵、伊東南洋、宇田川興斎、内山七郎右衛門、内山隆佐、梅谷左門、江馬信成、大浦玄尚、大坂屋源介、太田精一、大田良策、大藤高雅、大村益次郎（村田蔵六）、大森武介、緒方八重、緒方惟準、緒方惟孝、緒方拙斎、緒方郁蔵、徳川翁介、小山田主鈴、小山田大輔、笠原良策、笠原健蔵、金森建策、河田雄禎、川本泰然、黒川良安、小石元瑞、小石中蔵、後藤浩軒、佐伯きやう、佐伯瀬左衛門、佐伯右馬之介、佐野周研、篠田正貞、武谷椋亭、塚本道甫、津下成斎、坪井信良、戸塚静海、富沢松庵、頓宮篤弼、中尾沢右衛門、中島広足、中村恭安、長与道全、長与専斎、西有圭、萩原広道、八田道碩、濱口儀兵衛（梧陵）、久岡喜源太、久岡東作、平瀬後室、広瀬元恭、深沢雄甫、藤田彦左衛門、藤野昇八郎、船曳卓介、布野雲平、堀家きち、堀内忠亮、村上代三郎、森鼻純三郎、守屋庸庵、安田謙曹、山崎僊司、山田元珉、山田貞順、山成大年、山成直蔵、山鳴剛三、吉田有秋、渡辺卯三郎 各宛

【全体解説 1】 緒方洪庵書状について

【全体解説 2】 緒方洪庵の書状中の薬名について

その他文書

A 洪庵・適塾関係文書

田上章（緒方洪庵）出郷の書／過書町転居諸入用扣／緒方様諸入用遣払帳／弓場五郎兵衛宛金子受取覚／荷キョウ [貝＋兄]／振手形

B 除痘館関係文書

除痘館分苗免状／除痘館申合約定／申合約定／約定一札之事／館金議定／記 文久二年（一八六二）七月十九日／記 文久二年（一八六二）七月十九日

【解説】 洪庵・適塾関係文書および除痘館関係文書について
〈附録〉 適塾姓名録

【解説】 適塾姓名録をめぐる

著者略歴は刊行当時のものです。

村田路人（責任編集）（ムラタミチヒト）

神戸女子大学文学部教授、大阪大学適塾記念センター特任教授。日本近世史専攻。博士（文学）。主著に『近世広域支配の研究』（大阪大学出版会、1995 年）、『近世畿内近国支配論』（塙書房、2019 年）など。

尾崎真理（責任編集）（オザキマリ）

大阪大学適塾記念センター特任助教。日本近世史専攻。主要業績に「近世中後期における幕府の代官配置原則」（『ヒストリア』277 号、2019 年）など。



懐徳堂儒学の研究

ISBN978-4-87259-711-0 C3021

奥付の初版発行年月：2020年07月

藤居岳人 著

A5判 384ページ 上製 定価 6100円＋税10%

社会全体に対する責任感をもって政治実践に資するための学問として——幕末日本を動かした変革の裏にある、懐徳堂儒学の進展と儒者の存在とは。

江戸時代中期の大阪に開学した漢学塾懐徳堂。その最盛期の中心人物であった中井竹山・履軒兄弟が展開した懐徳堂儒学の軌跡から、朱子学とのつながり、懐徳堂儒学の思想史的意義を明らかにする。儒学を実学に昇華させた懐徳堂儒学は、幕末に向かう日本近世思想史上にどのような深まりをもたらし、幕府や西国諸藩への実学の波及にどのような役割を果たしたのか。膨大な懐徳堂蔵書から紐解き、懐徳堂を改めて思想史的に位置づける。

序章 問題の設定と本書の構成

第一部 江戸時代の儒者と寛政改革

第一章 儒者と知識人

—懐徳堂の儒者を例にして—

第二章 儒者と寛政改革

第二部 中井竹山・履軒の周囲の儒者—その朱子学的立

第一章 含翠堂の儒学と初期懐徳堂の儒学

第二章 五井蘭洲の儒学

第三章 後期朱子学派の儒学—尾藤二洲・頼春水を中心に

第三部 最盛期懐徳堂における経学研究

—中井竹山・履軒の経学研究

第一章 中井竹山の経学研究

—『四書断』を手がかりとして

第二章 中井履軒の性説1—その朱子学批判の立場—

第三章 中井履軒の性説2—性と気稟—

第四章 中井履軒の儒学的聖人観1

—伝統的儒学の立場に沿った理想像

第五章 中井履軒の儒学的聖人観2

—道を学ぶ者の理想像

第四部 最盛期懐徳堂儒学の経世思想

—中井竹山・履軒の実学思想—

第一章 現実に対する懐徳堂儒学の見解と中井竹山の儒者意識

第二章 中井竹山がめざしたもの

終章 懐徳堂儒学の思想史的意義とその後の展開

著者略歴は刊行当時のものです。

藤居岳人（フジイタケト）

1965年、大阪府生まれ。阿南工業高等専門学校教授。博士（文学）。専攻は中国思想史、日本思想史。

共著に『増補改訂版 懐徳堂事典』（大阪大学出版会、2016年）、『懐徳堂研究 第二集』（汲古書院、2018年）、『教養としての中国古典』（ミネルヴァ書房、2018年）、論文に「中井履軒の君子観」（『懐徳堂研究』第4号、2013年）、「江戸時代における儒者の朝廷観—中井竹山、新井白石らを例として—」（『懐徳堂研究』第9号、2018年）など。

大阪大学出版会 学会特別割引販売のご案内

※ 10月末日までのご注文に限り特価（定価の2割引）で販売いたします



[阪大リーブル 76] アーカイブズとアーキビスト 記録を守り伝える担い手たち

ISBN978-4-87259-644-1 C1300

奥付の初版発行年月：2021年03月

大阪大学アーカイブズ 編

四六判 234 ページ 並製 定価 1900 円+税 10%

公文書の作成・管理・利用。理想と現実には大きなギャップがあり、政治を揺るがす事件が都度都度起こる。日本では始まったばかりの体系的な公文書管理。地方公共団体の公文書保存の現状と、利用の現実・課題を伝える。

一般、学生向けにまとめられた、初めてのアーカイブズ学の入門書。

公文書を管理する機関「アーカイブズ」と、その公文書を管理する専門職員「アーキビスト」の成り立ちや仕事、取り組むべき課題について学べる。公文書とは、どこでどのように選ばれて残され、公開されているのか。

アーカイブズは「良くも悪くも国を映し出す鏡」でありながら、米国で有名な公文書館に比して、日本では自国のアーカイブズに対してきわめて関心が薄い。こうした背景や、法、歴史、地方自治体だけでなく、教育委員会、企業のアーカイブズの事例も示し、重要性和課題の根底にある問題も伝える。デジタル時代のアーキビストの業務についても収録。

第1講 アーカイブズ学始め

- 1 アーカイブズとアーキビスト
- 2 アーキビストの「職務基準書」と「認証アーキビスト」
- 3 アーキビストの養成、研修、民間資格
- 4 アーキビストの倫理綱領と専門職協会
- 5 アーカイブズの諸原則
- 6 そもそもアーカイブズとは

第2講 公文書の管理と保存を法律からみると

- 1 アーカイブズをめぐる法律
- 2 情報公開・個人情報保護制度
- 3 アーカイブズ法の課題

第3講 公文書管理制度の形成

- 1 現代日本における情報公開法と公文書管理法
- 2 公文書管理法の理念の源流
- 3 近現代日本における公文書管理保存制度の展開

第4講 地方公文書館の現状と課題

- 1 地方公文書館等の現状
- 2 地方公文書館の課題
- 3 「アーカイブズ文化」

第5講 何を残すべきなのか

一 熊本県公文書への私のチャレンジと日本への提言

- 1 熊本県総務部県政情報文書課からの誘い
- 2 行政ファイル一覧からのピックアップ作業
- 3 何を残し、何を残さないのか
- 4 地域振興局文書の選別作業
- 5 想定問答集、県をまたぐ広域の資料
- 6 教育委員会関係資料、農協関係資料、平成の大合併関連資料
- 7 文書の書き換えと真正性

第6講 自治体史編纂から見た公文書保存

- 1 自治体史編纂に不可欠な公文書
- 2 自治体の変遷と公文書
- 3 市町村における歴史公文書保存の現状
- 4 府県行政文書と郡役所文書
- 5 自治体史編纂後の収集史料の管理・保存

第7講 企業アーカイブズ—その歴史と現状、課題

- 1 日本におけるビジネス・アーカイブズの歴史と現状
- 2 現在の日本における企業アーカイブズが直面する課題
- 3 多国籍企業のアーカイブズ

第8講 デジタル時代のアーカイブズとアーキビスト

- 1 デジタル記録の管理と公開において考えるべき枠組み
- 2 具体的なしくみと実践

大阪大学アーカイブズ (編)

高橋明男 (著) (タカハシアキオ)

菅 真城 (著) (カンマサキ)

三阪佳弘 (著) (ミサカヨシヒロ)

矢切 努 (著) (ヤギリツトム)

三輪宗弘 (著) (ミワムネヒロ)

飯塚一幸 (著) (イイツカカズユキ)

廣田 誠 (著) (ヒロタマコト)

古賀 崇 (著) (コガタカシ)

大阪大学出版会 学会特別割引販売のご案内

※ 10月末日までのご注文に限り特価（定価の2割引）で販売いたします



【阪大リーブル 70】 公文書をアーカイブする 事実は記録されている

ISBN978-4-87259-638-0 C1336

奥付の初版発行年月：2019年08月

小川千代子，菅真城，大西愛 編著

四六判 230 ページ 並製 定価 1800 円＋税 10%

公文書は国民には遠い存在のように思われるが、公文書は税金で作成され、重要とされるものはアーカイブとなり誰でも閲覧できる。本書では国や市町村の文書保存の仕組みをわかりやすく紹介。また身近な文書から科学的な記録までを上手に整理する方法、それを賢く利用する方法を提言する。

…二〇世紀初頭から一九七〇年代までの日本では、アルカイヴ、アーカイブはなじみのない外国語でしかなかった。一九八七年一二月、公文書館法が成立したところから、アーカイブ（ズ）の語が公文書館関係者の間に少し浸透し始め、二一世紀直前のころになるとデジタル・アーカイブが政府のIT戦略と経済浮揚政策のもとで多用され始めた。このような流れを見ると、二一世紀の現在、アーカイブは経済浮揚のキーワードとして用いられ、普及浸透しつつあることが見て取れる。これからも、アーカイブは経済政策の波に乗ってより普及が図られていく可能性は高い。このような環境下で、その本来の意味を見失うことがないよう、切に願うものである。元来、「アーカイブ」には、証拠性の高い記録物や情報資源の確実な長期保管という意味合いがある。近視眼的経済浮揚政策に踊らされたまま、「保存する」というアーカイブの本来の意味を置き去りにしてはならない。必要な記録物を確実に未来に向けて保存し続ける機関、組織、及びそれを行うという動作、更には保存される記録物そのもの、これがアーカイブの変わらぬ意味でなければならない…（本書「おわりに」より）

1 国と地方公共団体の公文書

国の公文書と国立公文書館
鳥取県公文書館の理念とその制度整備
板橋区公文書館の公文書移管と公開

2 さまざまな資料をアーカイブする

暮らしの中のアーカイブ
資料のかたちはいろいろ
*コラム*私のファミリーストーリー

3 21世紀のアーカイブの潮流

日本に紹介されたアーカイブ
アーカイブ（ズ）の登場
デジタル・アーカイブ
二一世紀のアーカイブ潮流
アーカイブ、残すということ
むすび これからのアーカイブにむけて
付録「アーカイブ」定義集成

4 アーカイブを維持する修復技術

日本の古文書に見られる劣化症状とは？
紙資料の修復技術ってどんなもの？
まずは健康診断してから処置方針を決める
じつは近現代の記録史料が危ない！
出土した一五〇年前の炭化アーカイブを救う！
バチカンでも活用される日本の古文書修復違法
あらためて日本の文書修復について考えること
*コラム*世界のアーカイブ修復現場から

5 科学技術・国際機関のアーカイブ

セルン施設とアーカイブ
仁科記念財団、仁科芳雄記念室の見学レポート
国際連盟に届いた日本の国連脱退の電報
*コラム*国連高等弁務官事務所でアーカイブを守る人々

おわりに—これからのアーカイブに向けて

著者略歴は刊行当時のものです。

小川千代子（編著）（オガワチヨコ）

専門：文書館学・記録管理（国際資料研究所代表）

菅真城（編著）（カンマサキ）

専門：アーカイブズ学（大阪大学アーカイブズ教授）

大西愛（編著）（オオニシアイ）

専門：資料保存（大阪大学出版会）

金山正子（著）（カナヤママサコ）

専門：記録資料の保存修復（公益財団法人元興寺文化財研究所文化財調査修復研究グループリーダー／総括研究員）

元ナミ（著）（ウォン・ナミ）

専門：地方公文書館に関する国際比較研究（学習院大学大学院人文科学研究科博士後期課程）

平井洸史（著）（ひらい・たけし）

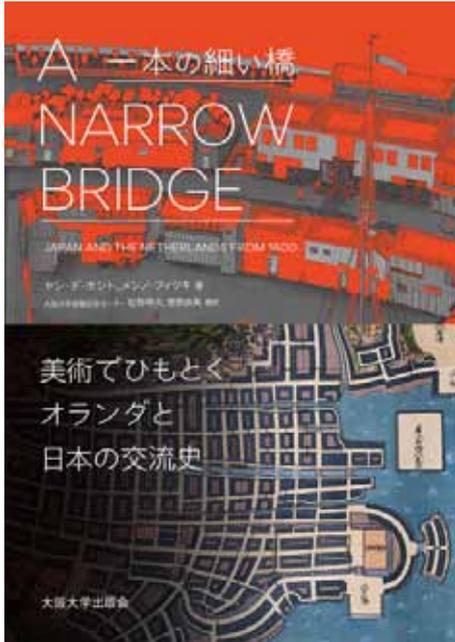
専門：日本考古学（大阪府立近つ飛鳥博物館学芸員）

武田浩子（著）（たけだ・ひろこ）

（公益財団法人元興寺文化財研究所研究補佐員）

大阪大学出版会 学会特別割引販売のご案内

※ 10 月末日までのご注文に限り特価（定価の 2 割引）で販売いたします



A Narrow Bridge 一本の細い橋

美術でひもとくオランダと日本の交流史

ISBN978-4-87259-701-1 C0020

奥付の初版発行年月：2020 年 03 月

ヤン・デ・ホント，メンノ・フィツキ 著

松野明久，菅原由美 翻訳

B5 変判 262 ページ 並製 定価 6000 円＋税 10%

出島と長崎を結んでいたのは一本の細い橋でした。出島は 1641 年から 1860 年まで。唯一オランダ人が居住を許された人口の島で。オランダ人はそこに住み、そこで仕事をしました…今日アムステルダム国立美術館に所蔵されている日本の品々はこの出島の門をくぐってその旅を始めたものたちが少なくありません…（本書「はじめに」より）

本書は、アムステルダム国立美術館とオランダの出版社 Vantilt の共同出版物『A Narrow Bridge: Japan and the Netherlands from 1600』の翻訳書で、同美術館及び他機関所蔵の美術工芸品等を美しい写真で見せながら、4 世紀にわたる日蘭関係史の大きな流れを解説するものである。

掲載された国家間の関係を物語る豪華な献上品や貴重な歴史資料、および同美術館所属の日本文化研究者とオランダ史研究者の合作によるテキストは、それらの品々が伝える意味を解きほぐし、それぞれの時代に生きた人びとを生き生きと描き出しており、類書にない特徴となっている。

INTERMEZZO 01

歴代オランダ商館長の氏名を記した漆塗りのパネル

ESSAY 01 リーフデ号の日本到着

ESSAY 02 最初の公式接触と平戸定住

INTERMEZZO 02

日本の小判

ESSAY 03 日本を出た日本人

ESSAY 04 出島

INTERMEZZO 03

ある出島の家族の物語

ESSAY 05 芸術と知識の交流

INTERMEZZO 04

日本の漆塗り箱からできたキャビネット

ESSAY 06 日本とオランダの関係の変容

INTERMEZZO 05

ブレイトネルと「ミカドの国」

ESSAY 07 20 世紀—新たな関係の展開

ヤン・デ・ホント (Jan de Hond) (著)

アムステルダム国立美術館歴史部門研究員。専門は 17 世紀の歴史。

メンノ・フィツキ (Menno Fitski) (著)

アムステルダム国立美術館アジア美術部門長。専門は柿右衛門、漆器を中心とした日本美術史。

松野明久 (翻訳) (マツノアキヒサ)

大阪大学大学院国際公共政策研究科教授。大阪大学適塾記念センターオランダ学研究部門(兼任)。専門は国際政治学、紛争研究。

菅原由美 (翻訳) (スガハラユミ)

大阪大学大学院言語文化研究科准教授。大阪大学適塾記念センターオランダ学研究部門(兼任)。専門はインドネシア史、イスラーム史。

大阪大学出版会 学会特別割引販売のご案内

※ 10 月末日までのご注文に限り特価（定価の 2 割引）で販売いたします



[阪大リーブル 68]

日本を彩る香りの記憶

ISBN978-4-87259-636-6 C1320

奥付の初版発行年月：2019 年 01 月

内野花 著

四六判 226 ページ 並製 定価 1600 円+税 10%

軽やかな筆致で描かれる、香りと歴史。歴史上の人物、文学のなかの人々が、生活のなかで欠かせなかった香りを、いかに駆使してさまざまなシーンを彩ってきたのか。仏教、香木、薫物、薬、香水、色の匂いなど、多様なエピソードで紹介。

…はるか彼方の沖合で雷鳴がとどろき、まばゆいばかりの光が満ちあふれる。その光に導かれ、波に乗って「香り」がやってきた—日本の歴史書に記された沈水香（沈香）の漂着は、今も昔も変わらない、日本人の香り好きを伝えています。大人がやっと抱えられるほど大きな大きな香木が波に乗って漂ってくる。しかもその香木は、神々がこの世に最初に創造された島として描かれている淡路島に漂着しました。この、とてもドラマティックな設定は、香りの持つ不思議な力を、雄弁に物語っています…古来、人々は香りを追い求め、また、衝き動かされながら、現代の私たちにつづく豊かな香りを紡いできました。甘くかぐわしい香り、苦々しい香り、心が浮きたつ香り、安心する香り、かなしい香り、うれしい香り、思わず吹き出してしまうような滑稽な香り—そして、香りはイメージとともに、私たちの心に記憶されていきます。人々はどうのように、香りを受けとめていたのでしょうか。… 祈りや美意識、生命の輝きをとおして、さまざまに日本の歴史に刻まれてきた香り。そんな香りの記憶を、文字でたどってみたいと思います…（本書「はしがき」より）

一 祈りの香り

イメージの記憶／沈水香の漂着／仏教における視感と香り／薬としての役割／光明皇后の施浴伝説

二 薫物の香り—身に纏う香りと六種の薫物

「にほひ（匂）」という感性／黒髪の香り／六種の薫物／あでやかな〈梅花〉／涼やかな〈荷葉〉／ぬくもりの〈落葉〉／「あはれ」の〈侍従〉／凜とした〈菊花〉／強さと美しさの〈黒方〉／〈百歩〉先からの香り

三 五節句の香り

人日の香り／上巳の香り／端午の香り／七夕の香り／重陽の香り

四 色彩の香り

四季の彩り／自己表現としての色—襲／襲の色目の名前／色の匂い

五 恋の香り

平中の想い人・侍従の君／雨の降る夜／可愛さあまって「樋箱簗奪事件」／えもいはず香ばしき黒方の香

六 バサラ・カブキたちの香り

人間五〇年／バサラの誕生—そしてカブキ／同時代の世界の激動／バサラ・カブキを生きる

七 義の香り

幼子のため／友への義／大坂夏の陣に散った伽羅／武士の義

八 理想の香り—伽羅、そしてヘリオトロープ

香道—教養としての香り／宣教師が見た香文化／薬種屋の砂糖漬／最高級の沈香「伽羅」／伽羅の油／花の露／

ヘリオトロープとの出会い—新しい時代を象徴する香り

著者略歴は刊行当時のものです。

内野花（著）（ウチノハナ）

大阪大学 CO デザインセンター招へい教員

1979 年生まれ。関西大学卒業。博士（文学）。専門は医薬文化史、被膜児伝説研究および女性文化史。

学芸員資格をもち、その関連業務や高等学校の講師を経て、2011 年から大阪大学コミュニケーション・デザインセンターで特任講師として勤務。Handai-Asahi 中之島塾や大阪大学×大阪ガス「アカデミックッキング」などにも登壇。2016 年から現職。キツネとネコ科動物をこよなく愛す。趣味は、植物の写真撮影と美術館巡り。

大阪大学出版会 学会特別割引販売のご案内

※ 10 月末日までのご注文に限り特価（定価の 2 割引）で販売いたします



大阪大学総合学術博物館叢書 18 EXPO'70 大阪万博の記憶とアート

ISBN978-4-87259-528-4 C1370

奥付の初版発行年月：2021 年 10 月

鄒燦 編

四六判 294 ページ 上製 定価 4700 円+税 10%

鮮烈な記憶を残した 70 年大阪万博の 50 周年に見えてきた、当時の批判、万博後の問題、地域にもたらしたもの、「夜のイベント」・「具体美術まつり」やよみがえった「音響芸術」等のアートの記憶とともに万博をたどる。

…本書は、当館の第 14 回特別展「なんやこりゃ EXPO'70—大阪万博の記憶とアート」展に基づいて執筆された論考、エッセイなどによって構成されています…思い返すに 70 年大阪万博は「人類の進歩と調和」がテーマでした。輝かしい人類の進歩と調和を予見したこの万博からちょうど半世紀後の昨年、感染症による多数の死者と重篤化患者、講堂の制限とヒトとのインターフェイスの抑制とディスタンス維持などという、進歩と調和ならぬ「停滞と不均衡」が世界中を覆ったのでした…本書では、そのようなささか不自由であったこの展覧会の内容について、論者それぞれの立場で、そのアートの意味を明らかにし、新しい側面に照明を当て、またその魅力について熱っぽく語っています。この叢書を読むことで、災禍にまみれ、光の見えなかった 2020 年の 1 年を、この展覧会とともにいつまでも記憶に留めることが出来ると願っています…（本書「はじめに」（大阪大学総合学術博物館館長・永田靖）より）

はじめに

EXPO'70 大阪万博に対する言説

1 万博とはなんだろうか？

大阪と博覧会

調和としての催し物

—日本万国博覧会お祭り広場における催し物の意義

2 音響と映像のパビリオン

せんい館「繊維は人間生活を豊かにする」

三菱未来館—体験型映像と音響のパビリオン

イタリヤ館と《メルクリウス像》

—万博遺産としてのモニュメント

生活産業館と田中健三

バシエの音響彫刻—EXPO'70 からよみがえる響き

【コラム】大阪万博でのシュトックハウゼンと、50 年後の

『マントラ』関西初演

大阪万博 インドネシア館の記録

京都・泉屋博古館に残る大阪万博の香り—住友と万博

3 万博と具体美術協会

具体美術まつり（図版）

夜のイベント

【コラム】ガーデン・オン・ガーデン

構想スケッチ

具体美術まつり—「新しい美術ショー」が目指したもの

みどり館エントランスホールでの展示

4 EXPO'70 の記憶

【コラム】万博と音楽—コンサートのパンフレット

1970 年の「ラテルナ・マギカ」

万博の記憶 万博と関連グッズ

日本万国博覧会と地域の記憶—北摂・豊中

日本万国博覧会と大阪大学

大阪万博の鉄鋼館—その起源から休眠まで

ハンパク—反戦のための万国博

大阪日本民芸館の創設とその今日的意義

—弘世現が果たした役割

1958 年ブリュッセル万博の人間展示と参加者の渡航文書

橋爪節也（編著）（ハシヅメセツヤ）

大阪大学総合学術博物館 教授

宮久保圭祐（編著）（ミヤクボケイスケ）

大阪大学総合学術博物館 准教授

永田靖（ナガタヤスシ）大阪大学大学院文学研究科 教授

岡田加津子（オカダカツコ）京都市立芸術大学音楽学部 教授

佐谷記世（サタニキヨ）芦屋市民センター 音楽プロデューサー

DIKDIK SAHAHDIKUMULLAH（ディクディク サヤディクムラッ）

インドネシア国立バンドン工科大学芸術デザイン学部 専任講師

竹嶋康平（タケシマコウヘイ）泉屋博古館 学芸員

加藤瑞穂（カトウミズホ）大阪大学総合学術博物館 招へい准教授

正木喜勝（マサキヨシカツ）阪急文化財団 学芸員

乾健一（イヌイケンイチ）茨城県近代美術館 学芸員

岡上敏彦（オカノウエトシヒコ）元日本万国博覧会記念機構 職員

長井誠（ナガイマコト）元大阪日本民芸館 常務理事、

（株）三友システムアプライザル 鑑定部部長

五月女賢司（著）（サオトメケンジ）吹田市立博物館 学芸員

著者略歴は刊行当時のものです。

大阪大学出版会 学会特別割引販売のご案内

※ 10 月末日までのご注文に限り特価（定価の 2 割引）で販売いたします



日本国憲法を考える [第4判]

ISBN978-4-87259-764-6 C3032

奥付の初版発行年月：2022 年 09 月

松井 茂記

四六判 308 ページ 並製 本体価格 1900 円 + 税 10%

憲法や法律を学ぶことは、暮らしの実践知を求めることだという姿勢のもと、初めて日本国憲法を学ぶ人のために、具体的な事例からまとめた一冊。重要なエッセンスは網羅しつつ、日本国憲法の多様な捉え方にも触れることができる。第4版では、新たに大規模自然災害や新型コロナウイルス感染症に関する「緊急事態」の章を追加。各章末には「考えてみましょう」の項目を付し、今生きる私たちのための日本国憲法のあり方を考える。

この本は、とりあえず日本国憲法を少し知ってみたいと思われたすべての方のために書かれたものです。おそらくこの本を手にとられる多くの方は、大学に入ってはじめて日本国憲法を学ぶことになった学生の方々ではないかと思いますが、この本を読むのに特別な資格は必要ありません。特別な法律の知識も要りません。ですから、どなたに読んでいただいてもけっこうです。日本国憲法は、この国の政治のあり方の基本を定めている法で、この国の最高法規です。日本に生まれ、あるいは暮らしているすべての方にとって、日本国憲法について知ることはとても大切です。とりわけ日本国憲法の改正が問題とされている現在、日本国憲法の内容を知ることは一人の市民としてぜひ必要なことでもあります。もちろんみなさんは、もうこれまでも学校などで、日本国憲法の 3 大原理とか、平和主義の大切さとか、統治の仕組みの大まかなところは勉強されたことがあるかもしれません。しかし、日本国憲法を学ぶということは、そのような抽象的なことを知るのではなく、もっと具体的な問題に答えることができるような考える力を身に付けるということです。この本は、そのための手助けとなるように意図されています。（本書 序章より）

はじめに iii
第4版へのはしがき
この本を読む前に

- I
01 憲法って何ですか
— 憲法の意味
02 日本国憲法は押し付けられた憲法だって本当ですか
— 日本国憲法の制定過程とその正当性
03 どうして憲法に従わなければならないのでしょうか
— 憲法の最高法規性

- II
04 人権って何ですか
— 基本的人権の意味
05 人権もみんなの利益のためには制約されて当然でしょうか
06 一緒にゴールするのが平等でしょうか
— 平等権
07 男も女も同じ人間のはずなのに
— 性差別
08 選挙なんてうとうしだけなんです
— 選挙権
09 宗教って何だか怖くありませんか
— 信教の自由と政教分離
10 やっぱ他人の名誉を傷つけるのはまずいですよね
— 名誉毀損と表現の自由

- vii
11 ポルノだっていいじゃない？
— わいせつな表現と表現の自由
12 きちんと整列し、赤信号を守って
— 集団行進の自由
13 どうしてテレビ局は勝手に放送できないの
— 放送の自由
14 インターネットの世界では何でもありですか
— インターネットと表現の自由
15 うっかりしゃべると
— 政府秘密の保護と表現の自由
16 クローン人間を作ることでも許されるのでしょうか
— 学問の自由
17 お金をもうけて何が悪いの
— 職業選択の自由と営業の自由
18 どうしてホームレスの人がいるの
— 生存権

- 19 どうして勉強しなければならないの
— 教育を受ける権利
20 電車が止まるととっても困るんだけど
— 勤労者の権利
21 私はウシじゃない
— プライバシーの権利
22 茶髪にして何が悪いの
— 自己決定権

- III
23 国民が政治の主人だっていわれても
— 国民主権
24 国会議員って何をする人なの
— 国会と立法権

- viii
25 どうして内閣総理大臣を選べないの
— 内閣と行政権
26 最高裁判所なんてなくてもいい？
— 裁判所と司法権
27 ほとんど使われない大法廷
— 司法審査
28 借金だらけの地方公共団体
— 地方自治
29 男の子が生まれないと
— 天皇
30 どうやって国を守ればいいのか？
— 平和主義
31 金だけでなく人も出せといわれるけれど
— 国際貢献

- IV
32 やっぱ日本国憲法って改正すべきですか
— 憲法改正を考える
33 このままでは緊急事態に困りますよね
— 緊急事態と憲法
憲法をもっと詳しく知りたくなった方のために

著者略歴は刊行当時のものです。

松井 茂記 (著) (マツイ シゲノリ)

1980 年 京都大学法学研究科修士課程修了

現在 プリティッシュ・コロロンビア大学ピーター・A・アラード・ロー・
スクール教授、大阪大学名誉教授